ONKYO

AV センター

TX-SA505

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

■各種サラウンド方式に対応した 7.1 チャンネルアンプ
■ドルビー*[1] デジタル、ドルビープロロジック II、ドルビープロロジック IIx、ドルビーデジタル EX サラウンド再生可能
■DTS*[2]、DTS-ES Discrete、DTS-ES Matrix、DTS Neo:6、DTS 96/24 サラウンド再生可能
■AAC サラウンド再生可能
■ノイズを最小限におさえ、本来の音を楽しむことのできる「Pure Audio」リスニングモード搭載
■高音域が強調された劇場用サウンドをご家庭で適切なバランスに補正する「CinemaFILTER*[3]」機能
■24bit/192kHz D/Aコンバーター搭載
■飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成する VLSC*[4]（Vector Linear Shaping Circuitry）をフロント 2 チャンネルに搭載
■再生周波数の広帯域化を図る WRAT（ワイド・レンジ・アンプリファイアー・テクノロジー）
■ダウンミックスによるフロント L/R チャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N 劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
■信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上の S/N を向上させるオプティマム・ゲイン・ボリューム回路
■D4/コンポーネント映像入力端子 3 系統、出力端子 1 系統装備
■3 系統の S-Video 入力端子装備
■7.1/5.1 マルチチャンネル入力端子装備、DVD-Audio、スーパーオーディオCDプレーヤーはもちろん、7.1ch フォーマットへの拡張性を実現
■デジタル入力端子として光 2 系統、同軸 2 系統、デジタル出力端子として光 1 系統装備
■付属の測定用マイクで自動スピーカー設定（Audyssey 2EQ*[5]）
■他機の操作を可能にするプリプログラム機能搭載のリモコン付属

*[1] ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
“Dolby”、“ドルビー”、“Pro Logic”およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
*[2] 本機は、DTS 社からのライセンスに基づき製造されています。
“DTS”、“DTS-ES”および“Neo：6”は、DTS 社の登録商標です。“96/24”は、DTS 社の商標です。
*[3] CinemaFILTER は、オンキヨー株式会社の登録商標です。
*[4] VLSC は、オンキヨー株式会社の登録商標です。
*[5] Audyssey Laboratories からの実施権に基づき製造されています。2EQ は、Audyssey Laboratories の商標です。

AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

目次

修理を依頼する前に

本機をリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことでトラブルが解消されることがあります。
電源を入れた状態で本体の VCR/DVR ボタンを押したまま、STANDBY/ON ボタンを押してリセットしてください。

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⊘記号は「〜してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの天面や底面に通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
（本機の天面、横から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

⚠ 警告

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

電池に関するご注意

■乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れる

■電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

⚠ 注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の上に 10kg 以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧（交流 100 ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に挿し込む

禁止

挿し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

⚠ 注意

■ぬれた手で電源プラグを抜き挿ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量に注意する

必ずする

突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■長時間大きな音でヘッドホンを使用しない

禁止

聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動時のご注意

■移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

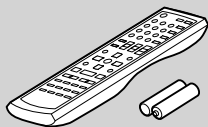
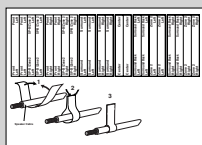
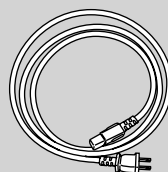
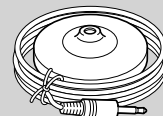
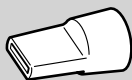
本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。

■機器内部の点検について
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■本機のお手入れについて
- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

準備する

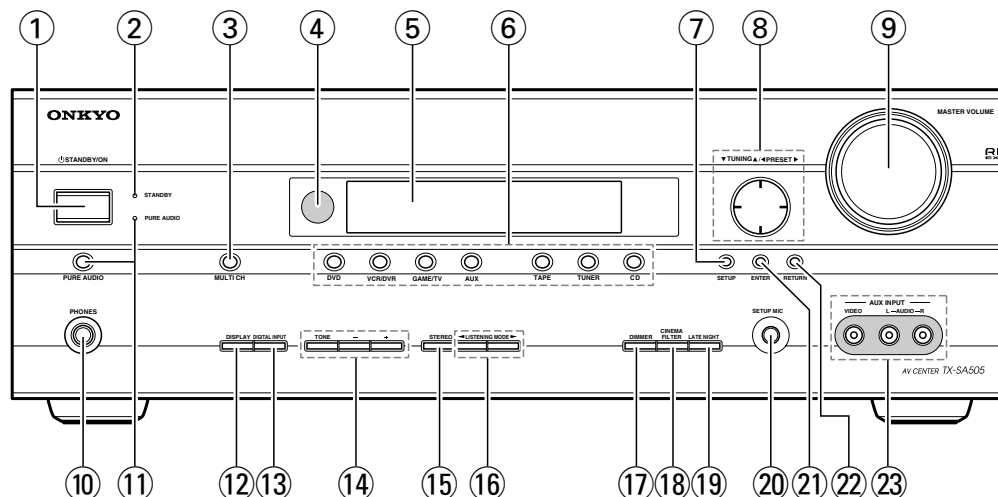
■付属品を確認する

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-684M）…（1）
単3乾電池…（2）

スピーカーコード用
ラベル…（1）

電源コード…（1）

測定用マイク…（1）

ターミナルレンチ…（1）

取扱説明書（本書）…（1）
簡単スタートガイド…（1）
保証書…（1）
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内…（1）
ユーザー登録カード…（1）

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　　〕内のページに主な説明があります。

① **STANDBY/ON ボタン**〔31〕
電源のスタンバイ / オンを切り換えます。

② **STANDBY インジケーター**〔31〕
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

③ **MULTI CH ボタン**〔38〕
DVD の音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

④ **リモコン受光部**〔14〕
リモコンからの信号を受信します。

⑤ **表示部**
次ページをご覧ください。

⑥ **入力切換ボタン（DVD、VCR/DVR、GAME/TV、AUX、TAPE、TUNER、CD）**〔36〕
再生する機器を選びます。

⑦ **SETUP ボタン**〔34、44、48 ～50、52〕
いろいろな設定を行います。

⑧ **カーソル▲ / ▼ /◀/▶ ボタン**
〔34、44、48 ～ 50、52、53〕
設定項目を選択します。

⑨ **MASTER VOLUME つまみ**〔36〕
音量を調整します。
音量は基本的に Min・1・2・・・78・79・Max の範囲で調整できます。

⑩ **PHONES 端子**〔37〕
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑪ **PURE AUDIO ボタンとインジケーター**〔40〕
リスニングモードを「Pure Audio」にします。
リスニングモードが「Pure Audio」のとき、インジケーターが点灯します。

⑫ **DISPLAY ボタン**〔39〕
表示部の情報を切り換えます。

⑬ **DIGITAL INPUT ボタン**〔35、53〕
デジタル入力を割り当てるとき、デジタル入力信号の種類を選びます。

⑭ **TONE ＋ / －ボタン**〔38〕
低音、高音を調整するときに使用します。＋ボタンを押すとレベルが高くなり、－ボタンを押すと低くなります。

⑮ **STEREO ボタン**〔40〕
リスニングモードを「Stereo」にします。

⑯ **LISTENING MODE◀/▶ ボタン**〔40〕
リスニングモードを選びます。

⑰ **DIMMER ボタン**〔37〕
表示部の明るさを切り換えます。

⑱ **CINEMA FILTER ボタン**〔46〕
シネマフィルター機能をオン / オフします。

⑲ **LATE NIGHT ボタン**〔46〕
レイトナイト機能をオン / オフします。

⑳ **SETUP MIC 端子**〔33〕
付属の測定用マイクを接続して、スピーカーの数や位置を検知します。

㉑ **ENTER ボタン**〔34、44、48、50、52〕
設定した項目を確定します。

㉒ **RETURN ボタン**
設定中に表示部を 1 つ前の表示に戻します。

㉓ **AUX INPUT 端子**
ビデオカメラやゲーム機などを接続します。

表示部

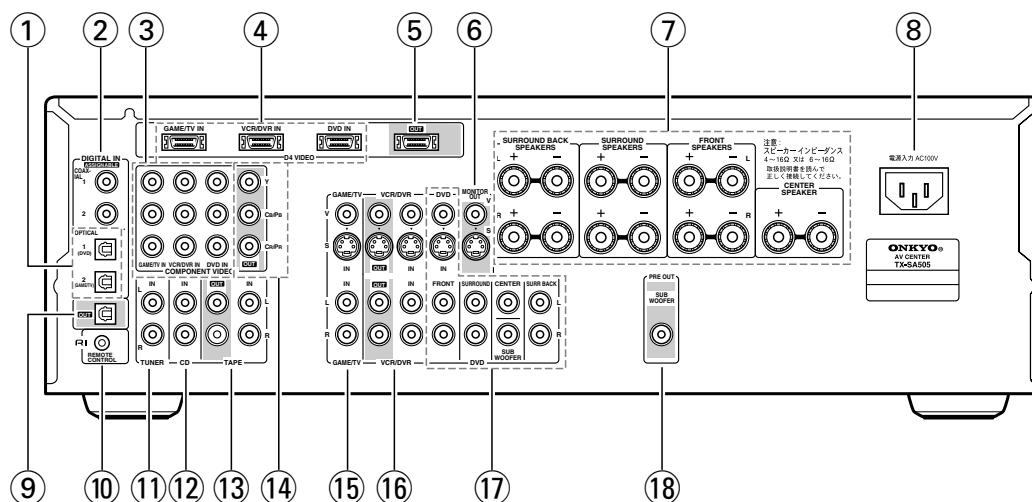
〔　　〕内のページに主な説明があります。

デジタル入力信号フォーマット/リスニングモード表示〔41〕
入力されているデジタル信号の種類およびリスニングモードを表示します。

入力信号フォーマット表示

表示	フォーマット
DD D	Dolby Digital
dts	DTS
PCM	PCM
AAC	AAC
MULTI CH	アナログマルチチャンネル

本体、リモコンボタンの名前と働き

後面パネル

① DIGITAL OPTICAL IN 1、2 端子
光デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器と音声接続する入力端子。

② DIGITAL COAXIAL IN1、2 端子
同軸デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器と音声接続する入力端子。

③ COMPONENT DVD IN、VCR/DVR IN、GAME/TV IN 端子
接続した機器からコンポーネント映像を入力する端子。S 映像より良い画質が得られます。

④ D4 VIDEO DVD IN、VCR/DVR IN、GAME/TV IN 端子
接続した機器から D 映像を入力する端子。
S 映像より良い画質が得られます。

⑤ D4 VIDEO OUT 端子
本機から D 映像を出力する端子。
S 映像より良い画質が得られます。

⑥ MONITOR OUT 端子
接続した映像機器の映像を、本機を通してテレビなどのモニターに映します。

⑦ スピーカー端子
スピーカーを接続します。

⑧ 電源入力 AC100V 端子
付属の電源コードを接続します。

⑨ DIGITAL OPTICAL OUT 端子
デジタル音声の出力端子。
デジタル録音機器を接続します。

⑩ RI REMOTE CONTROL 端子
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子。
RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑪ TUNER IN 端子
チューナーを接続します。

⑫ CD IN 端子
CD プレーヤーを接続します。

⑬ TAPE IN/OUT 端子
テープデッキや MD レコーダーなどの録音機器を接続します。

⑭ COMPONENT VIDEO OUT 端子
本機からコンポーネント映像を出力する端子。
S 映像より良い画質が得られます。

⑮ GAME/TV IN 端子
ゲーム機やテレビ、衛星放送チューナーなどを接続します。

⑯ VCR/DVR IN/OUT 端子
ビデオデッキや DVD レコーダーなどを接続します。

⑰ DVD IN 端子
DVD プレーヤーを接続します。

⑱ SUBWOOFER PRE OUT 端子
アンプ内蔵のサブウーファーを接続します。

接続については、16 ～ 30 ページをご覧ください。

リモコン（RC-684M）

REMOTE MODE ボタン

本機に付属のリモコンは、REMOTE MODE ボタンを切り換えることによって、本機を含めて最大 8 台の AV 機器を操作することができます。操作する機器に合わせて、各ボタンを切り換えてください。

- 本機以外の機器を操作するには、ご使用になる機器に合わせて、あらかじめ各ボタンに 4 桁のリモコンコードを登録する必要があります。詳しくは 54 ～ 57 ページをご覧ください。

■AMP/TAPE モード............ 12、13 ページ

本機を操作できます。また、本機とシステム連動が可能なオンキヨー製カセットデッキやチューナーも、RI接続 * によりこのモードで操作できます。

AMP
TAPE

■DVD モード.................................58 ページ

お買い上げ時の設定では、オンキヨー製 DVD プレーヤーが登録されています。リモコンコードを変更することで、他メーカー製の DVD プレーヤー、DVD レコーダーのいずれかを操作できます。

DVD

■CD/MD/CDR/DOCK モード..........59 ページ

お買い上げ時の設定では、オンキヨー製 CD プレーヤーが登録されています。リモコンコードを変更することで、オンキヨー製 MD レコーダーや CD レコーダー、RI DOCK、他メーカー製の録音機器のいずれかを操作できます。

■TV モード.....................................60 ページ

リモコンコードを登録することで、他メーカー製のテレビを操作できます。

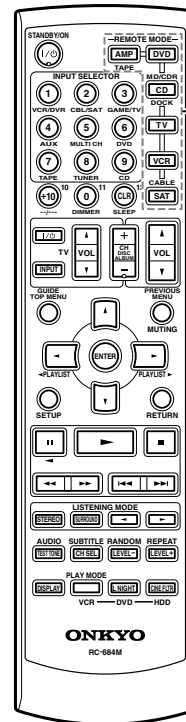
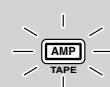
■VCR モード..................................60 ページ

リモコンコードを登録することで、他メーカー製のビデオデッキを操作できます。

■SAT/CABLE モード......................61 ページ

リモコンコードを登録することで、他メーカー製の衛星放送チューナー、またはケーブルテレビチューナーを操作できます。

CABLE
SAT

1 操作する機器にあわせて、REMOTE MODE ボタンを切り換える

REMOTE MODE
AMP DVD
TAPE
MD/CDR
CD
DOCK
TV
VCR
CABLE
SAT

2 選択したボタンが、数秒間点灯します

操作の際も、ボタンを押すたびに、選択しているモードのボタンが点灯します。

* RI接続については 29 ページをご覧ください。

ご注意

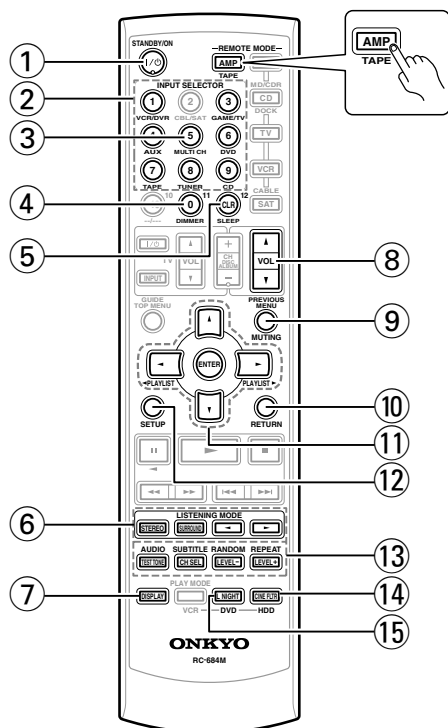
製品によっては、動作しない場合があります。

本体、リモコンボタンの名前と働き

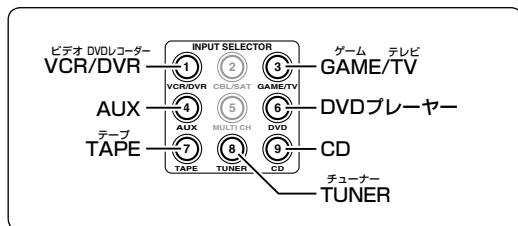
AMP/TAPE モード

本機を操作するとき

ここでは本機を操作する AMP/TAPE モードを選択したときに使用するボタンについて説明します。その他のモードでオンキヨー製品や他メーカー製のテレビ、ビデオ、AV 機器などを操作するときは 58 ～ 61 ページをご覧ください。

- **本機を操作するときは、まず AMP/TAPE ボタンを押してください。**

〔　〕内の数字は対応するページを表しています。
詳しくはそちらをご覧ください。

① **STANDBY/ON ボタン**〔31〕
本機の電源を入れたり、スタンバイ状態にします。

② **入力切換ボタン**〔36〕
再生する機器を選びます。

③ **MULTI CH ボタン**〔38〕
DVD の音声をマルチチャンネル入力に切り換えます。

④ **DIMMER ボタン**〔37〕
表示部の明るさを切り換えます。

⑤ **SLEEP ボタン**〔37〕
スリープタイマーを設定します。

⑥ **LISTENING MODE ボタン***〔40〕
- **STEREO ボタン**
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。
- **SURROUND ボタン**
Dolby Digital や DTS などのリスニングモードを選びます。
- **◀/▶ ボタン**
リスニングモードを選びます。

⑦ **DISPLAY ボタン**〔39〕
表示部の表示内容を切り換えます。

⑧ **VOL ▲ / ▼ ボタン***〔36〕
音量を調節します。

⑨ **MUTING ボタン**〔37〕
音を一時的に小さくします。

⑩ **RETURN ボタン**
設定中に、表示部を 1 つ前の表示に戻します。

⑪ **▲/▼/◀/▶/ENTER ボタン**〔34、44、48 ～50、52、53〕
設定中に、上下左右ボタンを押して項目を選択します。ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑫ **SETUPボタン**〔34、44、48～50、52〕
表示部に設定画面を表示させます。

⑬ **TEST TONE/CH SEL/LEVEL － / ＋ボタン**〔38、51〕
スピーカーの音量レベルを個々に設定します。

⑭ **CINE FLTR ボタン**〔46〕
シネマフィルター機能をオン / オフします。

⑮ **L NIGHT ボタン**〔46〕
レイトナイト機能をオン / オフします。

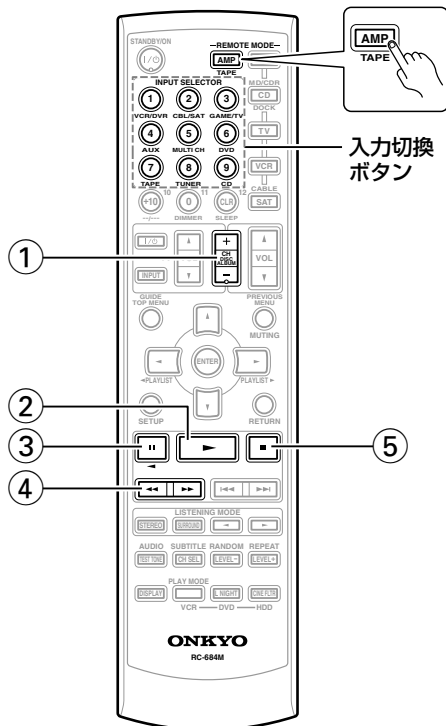
* ⑥⑧ は、AMP/TAPE モード以外の REMOTE MODE ボタンを選択しているときも使用できます。

AMP/TAPE モード　本機にRI接続したチューナー、カセットデッキを操作するとき

本機とシステム連動が可能なオンキヨー製カセットデッキやチューナーも、RI接続 * により AMP/TAPE モードで操作できます。

- **本機とRI接続したチューナー、カセットデッキを操作するときは、まず AMP/TAPE ボタンを押してください。**

* RI接続については 29 ページをご覧ください。

ご注意
- 製品によっては、動作しない場合があります。
- オンキヨー製のカセットデッキを本機に接続してご使用になるときは、35 ページの「入力表示を切り換える」で、入力表示を「TAPE」に切り換えてください。
  お買い上げ時の設定では、入力表示は「TAPE」となっています。

① CH + / −ボタン
チューナーにプリセットした放送局の番号を選びます。

② ► ボタン
テープの表面を再生します。

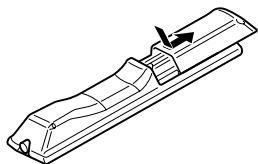
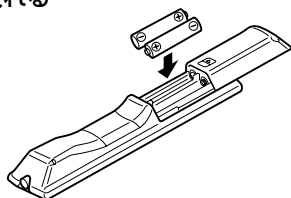
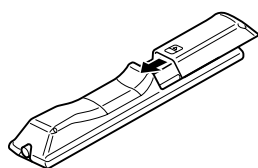
③ ◄ ボタン
テープの裏面を再生します。

④ ◄◄/►► ボタン
テープの巻き戻し、早送りをします。

⑤ ■ ボタン
テープの再生を停止します。

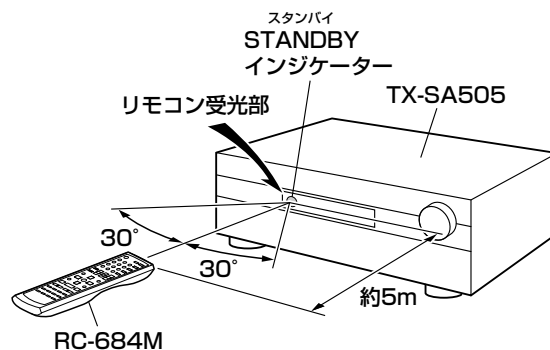
本体、リモコンボタンの名前と働き

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向にずらして開ける

2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池 2 個を＋（プラス）と－（マイナス）を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して 2 本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単 3 形をご使用ください。

リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機の STANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

ホームシアターとは

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
再生する信号によって、DTS やドルビーデジタル再生、オンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。

スピーカーの使いかた

2 つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。(2 チャンネル再生)
3 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。(3 チャンネルサラウンド)
4 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(4 チャンネルサラウンド)
5 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(5 チャンネルサラウンド)
6 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。(6 チャンネルサラウンド)
7 つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーとして使用します。(7 チャンネルサラウンド)
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。(○.1 チャンネル再生)

左右フロントスピーカー
総合的に音声を出力します。
ホームシアターの柱となり、音場をしっかりと整える役割を果たします。
視聴位置の前方に配置します。
音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。左右対象が理想です。

センタースピーカー
左右フロントスピーカーの音響効果や音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。映画ではとくにセリフが出力されます。
できるだけ画面の近くで、視聴者の耳に向くように配置してください。左右フロントスピーカーとなるべく同じ高さになるように配置してください。

左右サラウンドバックスピーカー
サラウンドチャンネルの空間表現力を高め、移動音効果や後方の音場を一層リアルに表現します。
視聴者の耳より 1 m高い位置にスピーカーを配置するのが理想です。

サブウーファー
低音のみを出力し、迫力ある重低音効果を最大限に発揮します。
部屋の隅、または部屋の1/3の位置が効果的です。

左右サラウンドスピーカー
臨場感を高める役割を果たします。
効果音などで音の立体的な動きを表現します。
視聴位置の横または後斜めに配置します。
左右対象で視聴者の耳より 1 m高い位置が理想です。

- 電源を入れたらまず、付属の測定用マイクを使って自動スピーカー設定を行ってください。(☞32 ページ)

接続をする

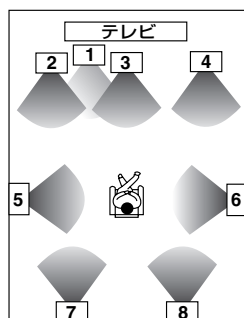
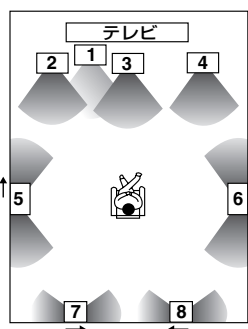
スピーカーを接続する

サラウンドバックスピーカーの配置について

サラウンドバックスピーカーは、Dolby Digital EX、Dolby Pro Logic IIx、DTS-ES Matrix、DTS-ES Discrete などのリスニングモードを楽しむときに必要です。
設置例 1 は、一般的なスピーカーを設置した場合です。
設置例２は､ダイポール型スピーカーを設置した場合です｡
ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、二つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。
ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

***位相**　：　正弦波の 1 周期（0 ～ 360 度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、＋、－の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聞きづらさがあったりします。

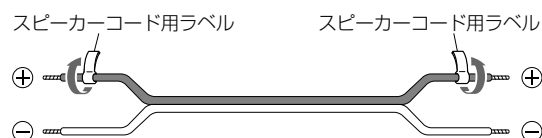
設置例 1

設置例 2

1 サブウーファー
2 左フロントスピーカー
3 センタースピーカー
4 右フロントスピーカー
5 左サラウンドスピーカー
6 右サラウンドスピーカー
7 左サラウンドバックスピーカー
8 右サラウンドバックスピーカー

スピーカーコード用ラベルの使いかた

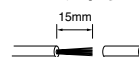
本機はスピーカー端子の ⊕ 側を色分けして識別しやすくしています。付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス ⊕ に貼ると識別が簡単になります。スピーカー端子は以下のように色分けしています。

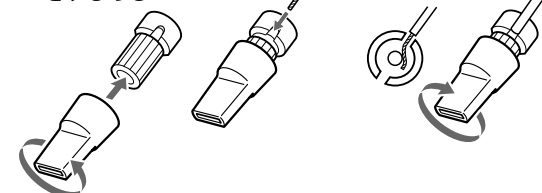
スピーカーコード用ラベル　　スピーカーコード用ラベル

⊕　⊕
⊖　⊖

左フロント　：**白**　左フロントスピーカーのコード両端（⊕ 側）に白いラベルを貼る
右フロント　：**赤**　右フロントスピーカーのコード両端（⊕ 側）に赤いラベルを貼る
センター　：**緑**　センタースピーカーのコード両端（⊕ 側）に緑のラベルを貼る
左サラウンド　：**青**　左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕ 側）に青いラベルを貼る
右サラウンド　：**灰**　右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕ 側）に灰色のラベルを貼る
左サラウンドバック：**茶**　左サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕ 側）に茶色のラベルを貼る
右サラウンドバック：**ベージュ**
右サラウンドバックスピーカーのコード両端(⊕ 側)にベージュのラベルを貼る

スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス ⊕ とスピーカーのプラス ⊕ 端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナス ⊖ とスピーカーのマイナス ⊖ 端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

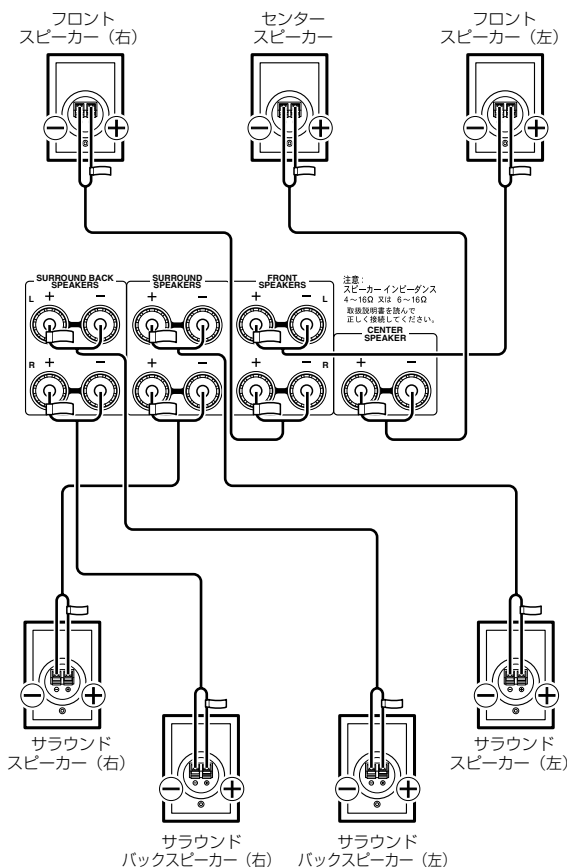
①スピーカーコードの被覆を 15mm カットする　　**②しん線の先端をしっかりとよじる**

③付属のターミナルレンチを使って、ねじをゆるめる　　**④しん線を差し込む**

⑤付属のターミナルレンチを使って、ねじを締め付ける

ご注意

しん線はしっかりとよじり、後面パネルなどの金属に接触しないようにしてください。

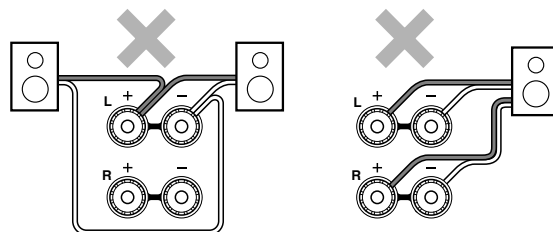
スピーカーの配置については「ホームシアターとは」(☞15 ページ)および「サラウンドバックスピーカーの配置について」(☞16 ページ)をご覧ください。

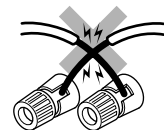
＊下図は、本機の背面から見たスピーカーの位置関係となっています。15 ページのスピーカーの配置とは左右が逆になりますのでご注意ください。

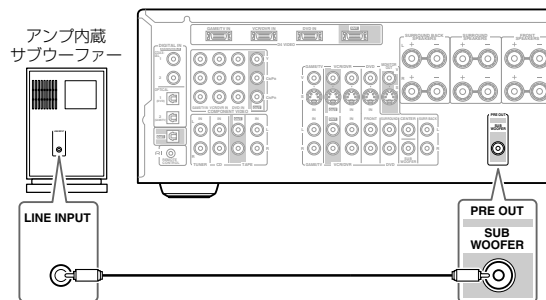
本機にはインピーダンスが４Ω〜 16 Ωのスピーカーを接続してください。ただし、インピーダンスが４Ω以上６Ω未満のスピーカーを１台でも接続するときは、34ページで「スピーカーインピーダンス」を４Ωに設定してください。

サラウンドバックスピーカーを１つだけ使用する場合は、SURROUND BACK SPEAKERS（L）端子に接続してください。

5.1chの場合は、FRONT SPEAKERS(L/R)、CENTER SPEAKER、SURROUND SPEAKER（L/R）端子に接続してください。

ご注意

- プラス ⊕ とマイナス ⊖ を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- １台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、１台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。

サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーを SUBWOOFER PRE OUT 端子に接続します。

！ヒント

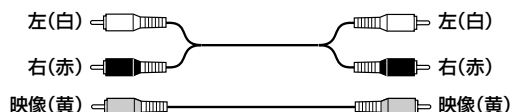
- 再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または 1/3 の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。
- サブウーファー側で設定ができる場合、音量は八分目にし、カットオフフィルター切換スイッチは「DIRECT」にしてください。カットオフフィルタースイッチがなく、カットオフ周波数調整ツマミがある場合は、周波数を最大にしてください。

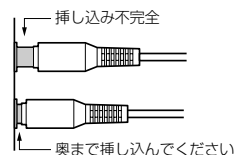
接続をする

接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードはすべての接続が終わるまでつながないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（R の表示）、白いコネクターを左チャンネル（L の表示）、黄色のコネクターをビデオチャンネル（V の表示）に接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで挿し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

挿し込み不完全

奥まで挿し込んでください

光デジタル入力端子 / 出力端子について

本機の光デジタル端子はすべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを挿し込んでください。

ご注意

光デジタルケーブルはまっすぐ抜き挿ししてください。
ななめに抜き挿しすると、とびらが破損する場合があります。

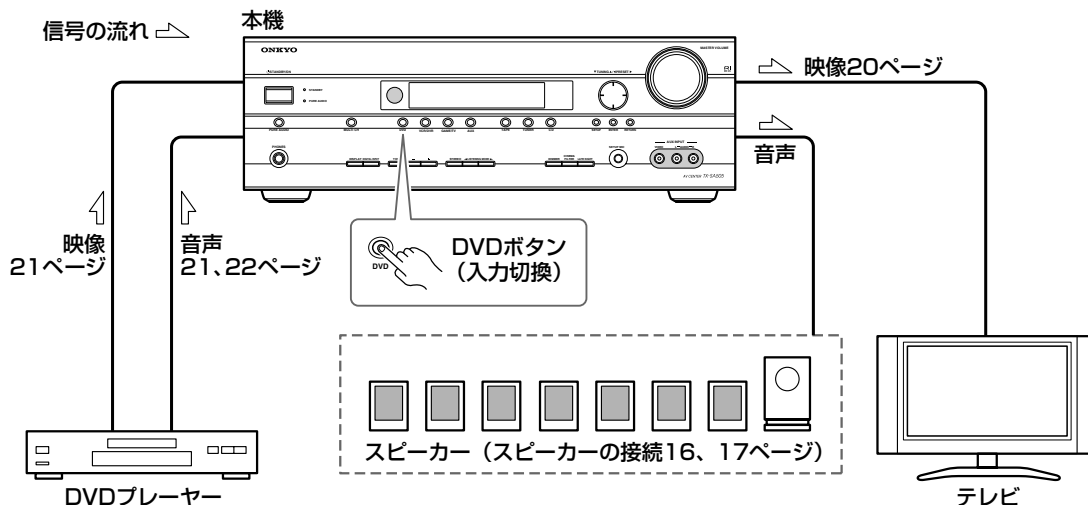
映像／音声ケーブルと端子の種類について

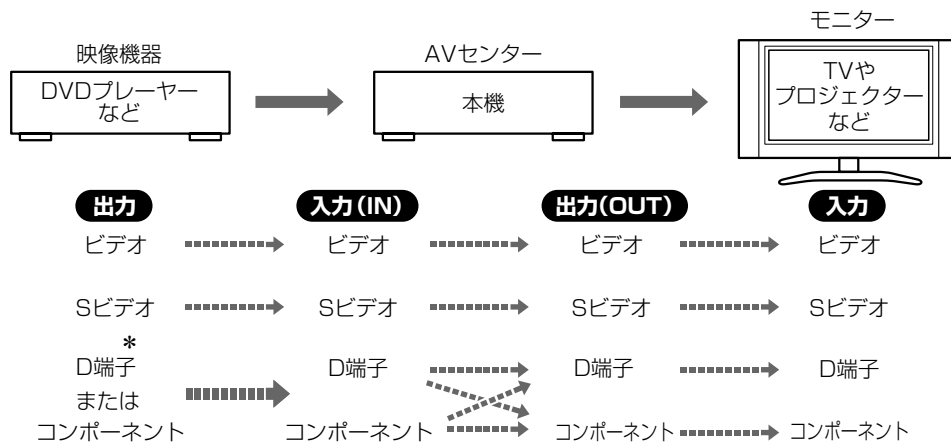
映像ケーブルと端子の種類			
ケーブルの名称	**ケーブルの形**	**端子の形**	**ケーブルや端子の役割**
コンポーネント ビデオコード		Y CB/PB CR/PR	画質は S ビデオより良く、D 端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
D 端子用 接続コード		D4	画質は S ビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
S ビデオコード		S VIDEO	コンポジットの映像より良い画質が得られます。本機では映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
ビデオコード （コンポジット）		VIDEO	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。

音声ケーブルと端子の種類			
ケーブルの名称	**ケーブルの形**	**端子の形**	**ケーブルや端子の役割**
光デジタルケーブル （OPTICAL（オプティカル））		OPTICAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質は COAXIAL と同レベルです。
同軸デジタルケーブル （COAXIAL（コアキシャル））		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質は OPTICAL と同レベルです。
オーディオ用ピンコード		L R	アナログ音声を伝送します。
マルチチャンネル 接続コード	x4	FRONT SURROUND CENTER SURR BACK SUB WOOFER	DVD オーディオ対応の DVD プレーヤーなどとの接続に使用します。 アナログマルチチャンネル音声を伝送します。

AVセンターを使う

DVD プレーヤーなど、映像機器は映像接続と音声接続を行ってください。本機の入力を切り換えるだけでその機器の映像と音声を選ぶことができます。

例：DVD プレーヤーと組み合わせる場合

映像接続のしくみ

本機にはビデオ、S ビデオ、D 端子、コンポーネントの 4 種類の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使います。

＊映像機器の映像出力からモニターの映像入力まで D 端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

- D4 VIDEO（ビデオ） IN（イン） 端子と COMPONENT（コンポーネント） VIDEO IN 端子は内部で並列になるように設計されていますので、1 つの系統に両方を接続しないでください。たとえば、D4 VIDEO DVD IN 端子に映像機器を接続した場合は、COMPONENT VIDEO DVD IN 端子には何も接続しないでください。

テレビやプロジェクターと接続する

ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと映像接続をしてください。

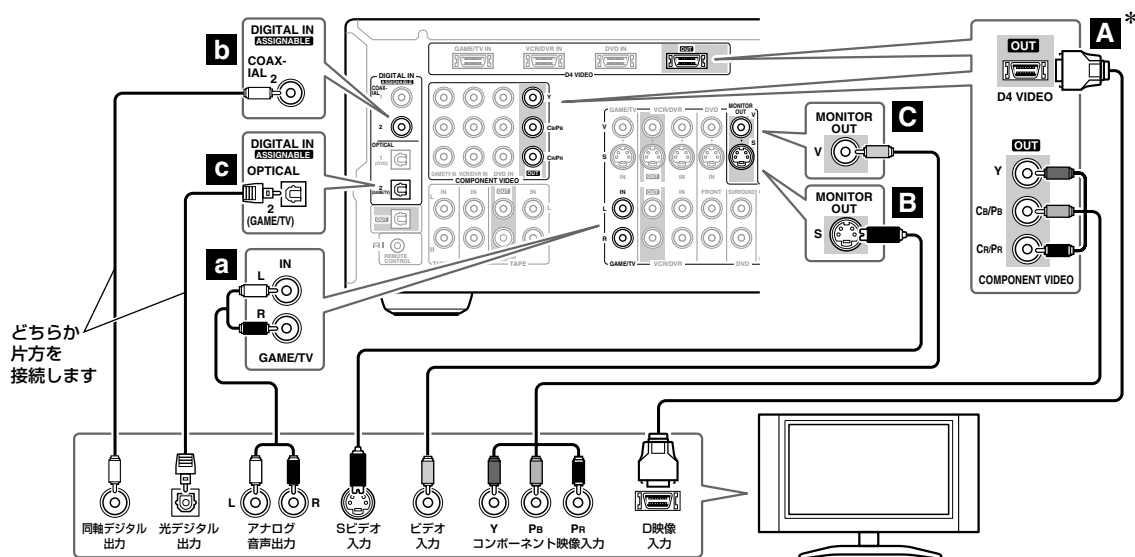
！ヒント 19 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- テレビの音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RIオーディオコントロール端子付テレビと連動させるときに必要です。（☞30 ページ）

地上デジタルやBS デジタルのサラウンド放送を楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	テレビ / プロジェクター	画質
A	D4 VIDEO OUT 端子 または COMPONENT VIDEO OUT 端子	➡	D 映像入力端子 または コンポーネント映像入力端子	最良
B	MONITOR OUT S 端子	➡	S ビデオ入力端子	良い
C	MONITOR OUT V 端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準
a	GAME/TV IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL 2 端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL 2 端子	⬅	光デジタル出力端子	

！ヒント

テレビに音声出力端子がないときは、ビデオデッキの音声出力端子と本機の VCR/DVR IN L/R 端子を接続してください。ビデオデッキに内蔵されているチューナーからテレビの音声をお楽しみいただけます。

＊ D4 VIDEO OUT 端子と COMPONENT VIDEO OUT 端子は同時に出力することができますが、映像が乱れるときはどちらか片方のみ接続してください。（☞19 ページ）

DVDプレーヤーと接続する

ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から 1 つ選んで DVD プレーヤーと映像接続をしてください。

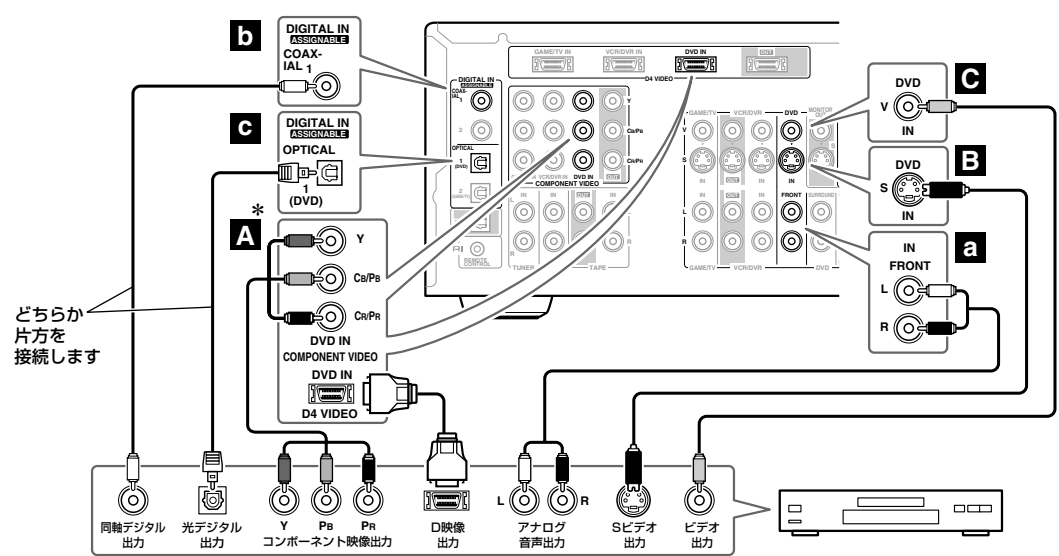
！ヒント 19 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで DVD プレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- DVD の音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI端子付オンキヨー製 DVD プレーヤーと連動させるときに必要です。（☞29 ページ）

ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	DVD プレーヤー	画質
A	D4 VIDEO DVD IN 端子 または COMPONENT VIDEO DVD IN 端子	←	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	DVD IN S 端子	←	S ビデオ出力端子	良い
C	DVD IN V 端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	DVD IN FRONT L/R 端子	←	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL 1 端子	←	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL 1 端子	←	光デジタル出力端子	

！ヒント

DVD プレーヤーにマルチチャンネルと 2 チャンネルの両方の出力端子がある場合で、本機の DVD IN FRONT L/R 端子だけを接続するときは、DVD プレーヤーの 2 チャンネル出力端子と接続してください。マルチチャンネル接続は次ページをご覧ください。

＊ D4 VIDEO DVD IN 端子と COMPONENT VIDEO DVD IN 端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。（☞19 ページ）

接続をする（映像機器を接続する）

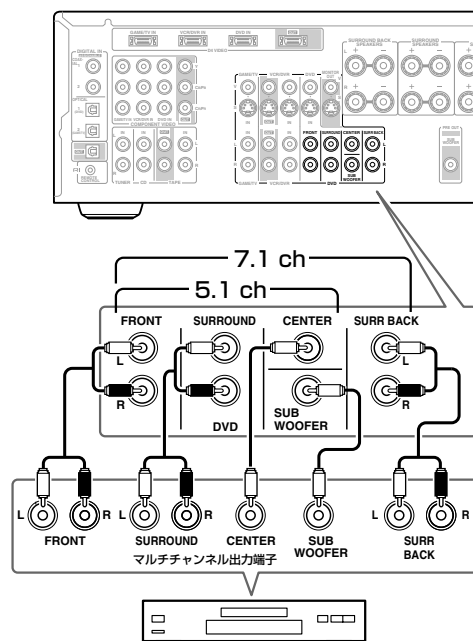
■マルチチャンネル（5.1/7.1ch）出力端子がある DVD プレーヤーと接続する

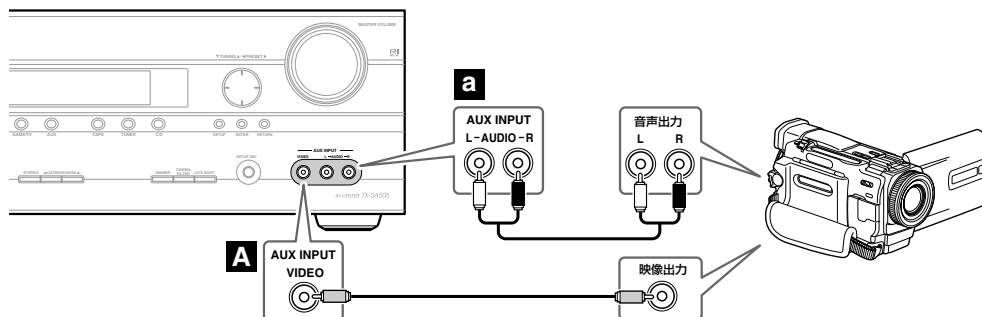
DVD オーディオなどのマルチチャンネル音声に対応している機器の場合、DVD オーディオなどの再生がお楽しみいただけます。

5.1 チャンネル接続

5.1 チャンネル接続するときは、マルチチャンネル接続コードまたは、オーディオ用ピンコード 3 本を使って DVD プレーヤーのマルチチャンネル出力端子と本機の DVD IN FRONT L/R、SURROUND L/R、CENTER、SUBWOOFER 端子を接続します。

7.1 チャンネル接続

7.1 チャンネル接続するときは、5.1 チャンネル接続に加え、オーディオ用ピンコードを使って SURR BACK L/R 端子を接続してください。

ビデオカメラと接続する

ステップ 1： **A** の映像接続をしてください。　ステップ 2： **a** の音声接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオカメラ
A	AUX INPUT VIDEO 端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子
a	AUX INPUT L/R 端子	←	アナログ音声出力端子

ビデオデッキやDVDレコーダーと接続する（再生編）

ステップ１：映像接続をする

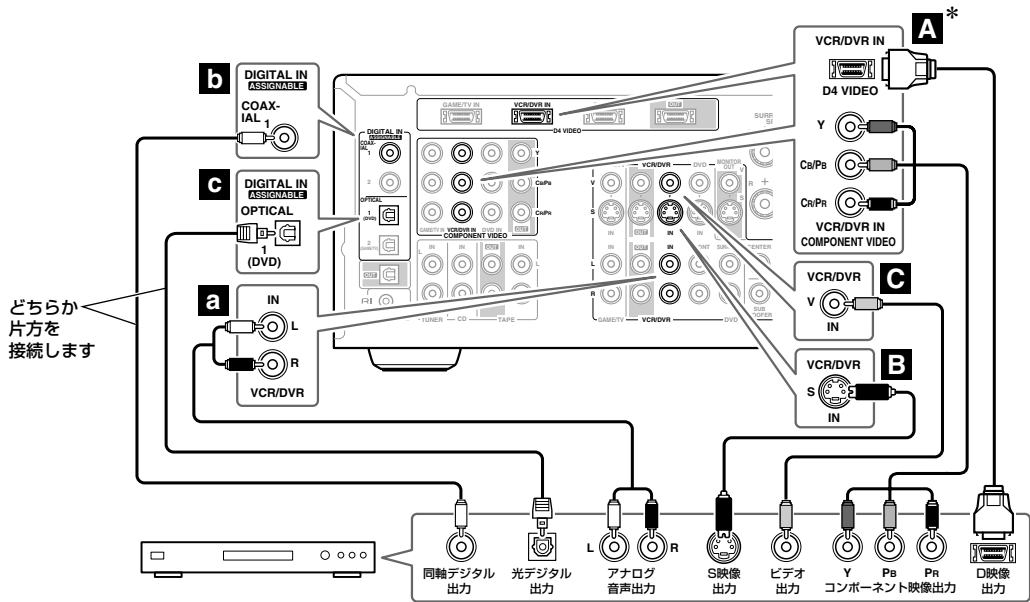
A、B、C の接続から１つ選んでビデオデッキや DVD レコーダーと映像接続をしてください。

！ヒント 19 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ２：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでビデオデッキや DVD レコーダーと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。

ドルビーデジタルやDTSなどのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ/DVD レコーダー	画質
A	D4 VIDEO VCR/DVR IN 端子 または COMPONENT VIDEO VCR/DVR IN 端子	←	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	VCR/DVR IN S 端子	←	S ビデオ出力端子	良い
C	VCR/DVR IN V 端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	VCR/DVR IN L/R 端子	←	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL 1 端子	←	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL 1 端子	←	光デジタル出力端子	

＊D4 VIDEO IN 端子と COMPONENT VIDEO IN 端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。（☞19 ページ）

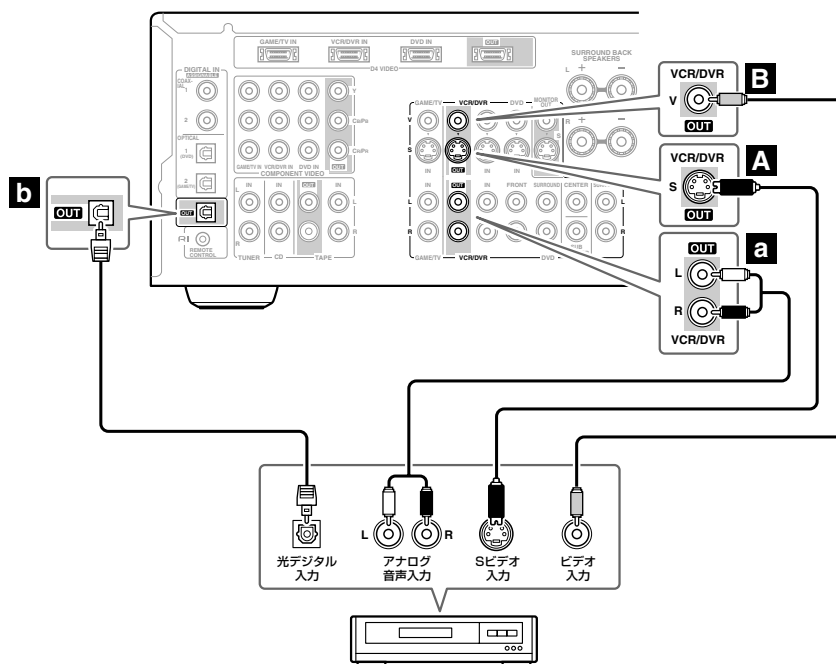
接続をする（映像機器を接続する）

ビデオデッキやDVDレコーダーと接続する（録画編：本機を通して録画する）

ステップ 1： ビデオデッキや DVD レコーダーと **A** または **B** の映像接続をしてください。

！ヒント 19 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2： アナログ録音する場合は **a**、デジタル録音する場合は **b** の接続をしてください。

• アナログ入力された音声信号は、デジタル出力されません。同様に、デジタル入力された音声信号もアナログ出力されません。

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ/DVD レコーダー	画質
A	VCR/DVR OUT S 端子	➡	S ビデオ入力端子	良い
B	VCR/DVR OUT V 端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準
a	VCR/DVR OUT L/R 端子	➡	アナログ音声入力端子	
b	DIGITAL OUT OPTICAL 端子	➡	光デジタル入力端子	

ご注意　録画をするときは、本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態では録画できません。

ゲーム機や衛星放送/ケーブルテレビチューナーなどと接続する

ステップ１：映像接続をする

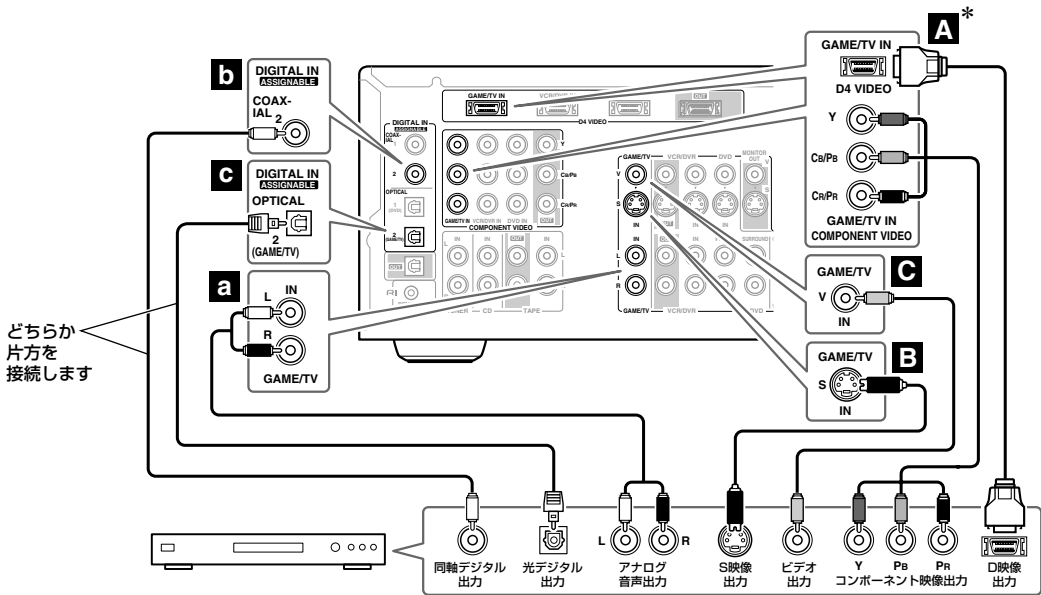
A、B、C の接続から１つ選んでゲーム機や衛星放送 / ケーブルテレビチューナーなどと映像接続をしてください。

！ヒント 19 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ２：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでゲーム機や衛星放送 / ケーブルテレビチューナーなどと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。

AAC やドルビーデジタル、DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ゲーム機 / 衛星放送 / ケーブルテレビチューナー	画質
A	D4 VIDEO GAME/TV IN 端子 または COMPONENT VIDEO GAME/TV IN 端子	⬅	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	GAME/TV IN S 端子	⬅	S ビデオ出力端子	良い
C	GAME/TV IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	GAME/TV IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL IN COAXIAL 2 端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL IN OPTICAL 2 端子	⬅	光デジタル出力端子	

＊D4 VIDEO IN 端子と COMPONENT VIDEO IN 端子は同時に入力することができません。どちらか片方のみ接続してください。(☞19 ページ)

接続をする（オーディオ機器を接続する）

CDプレーヤーやレコードプレーヤーと接続する

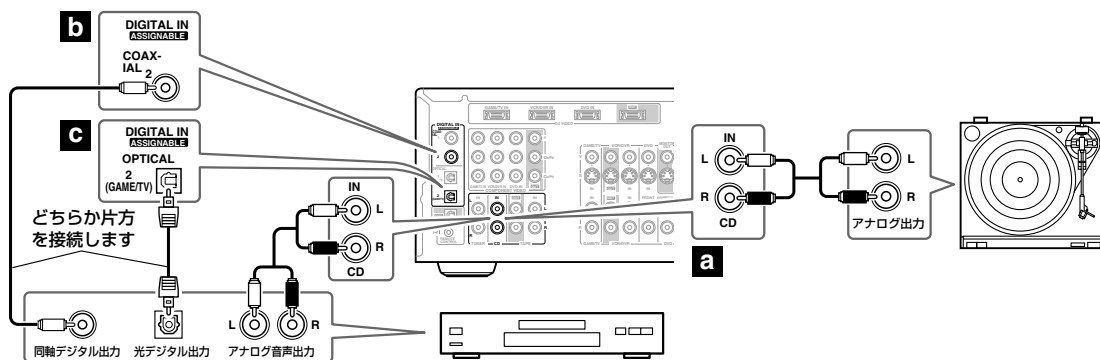
■CDプレーヤーやフォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーを接続するとき

ステップ 1：音声接続をする

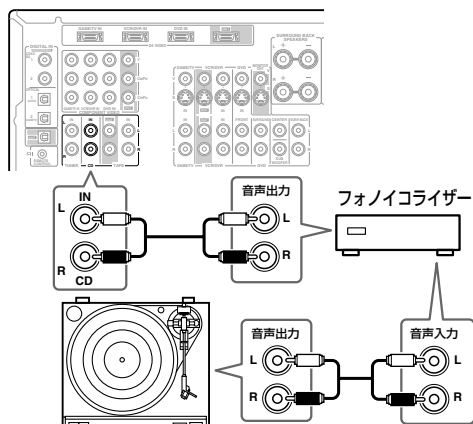
a、**b**、**c** の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続 a

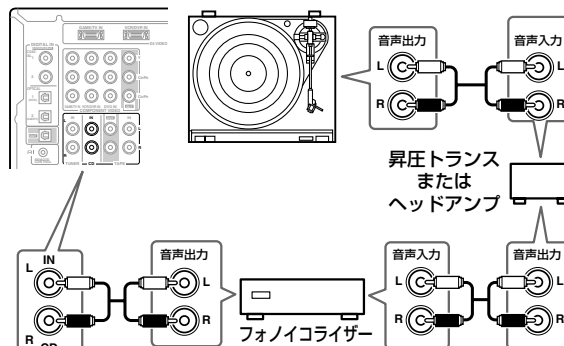
- CD の音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI端子付オンキヨー製 CD プレーヤーと連動させるときに必要です。（☞29 ページ）

CD の PCM や DTS 信号のリスニングモードを楽しみたいときは、**b** または **c** の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	CD プレーヤー/レコードプレーヤー
a	CD IN L/R 端子	←	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL 2 端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL 2 端子	←	光デジタル出力端子

■レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵でない場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーとフォノイコライザーの音声入力端子を接続し、フォノイコライザーと空いている L/R IN 端子を接続します。

■MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーの場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーと昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続し、それにフォノイコライザーを接続します。

フォノイコライザーを本機の空いている L/R IN 端子に接続します。

詳しい説明は、レコードプレーヤーやフォノイコライザーの取扱説明書をご覧ください

カセットデッキ、MDレコーダー、CDレコーダーと接続する

ステップ 1：音声接続をする

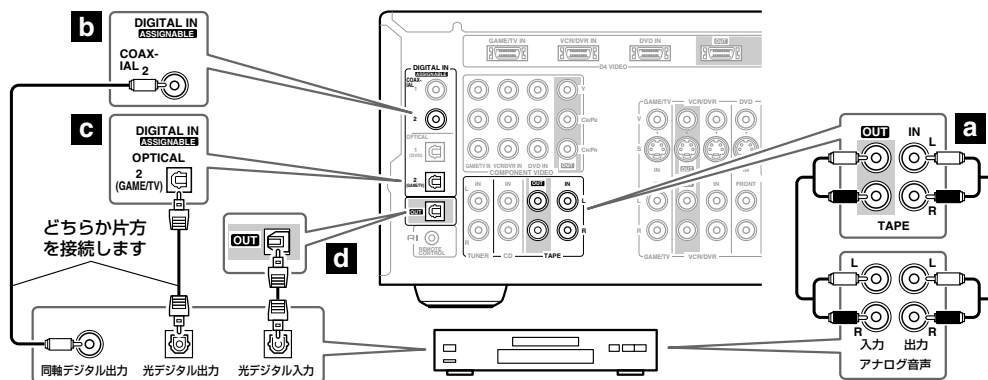
a、b、c、d の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- アナログ録音することができます。
- デジタル入力された音声信号は、アナログ出力されません。
- RI端子付オンキヨー製品と連動させるときに必要です。（☞29 ページ）

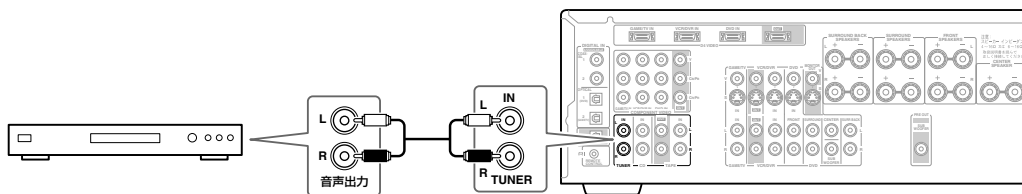
CD の PCM や DTS 信号のリスニングモードを楽しみたいときは、b または c の接続をしてください。

デジタル録音するときは、d の接続をしてください。

●アナログ入力された音声信号は、デジタル出力されません。

接続	本機	信号の流れ	録音機器
a	TAPE IN L/R 端子 TAPE OUT L/R 端子	⬅ ➡	アナログ音声出力端子 アナログ音声入力端子
b	DIGITAL IN COAXIAL 2 端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL IN OPTICAL 2 端子	⬅	光デジタル出力端子
d	DIGITAL OUT OPTICAL 端子	➡	光デジタル入力端子

チューナーを接続する

ステップ 1：音声接続をする

オーディオ用ピンコードでチューナーの音声出力端子と本機の TUNER（チューナー） IN L/R 端子を接続します。

リモートインタラクティブドック（RIドック）と接続する

映像と音声に対応する機器を、RIドックにセットする場合

ステップ 1：映像接続をする

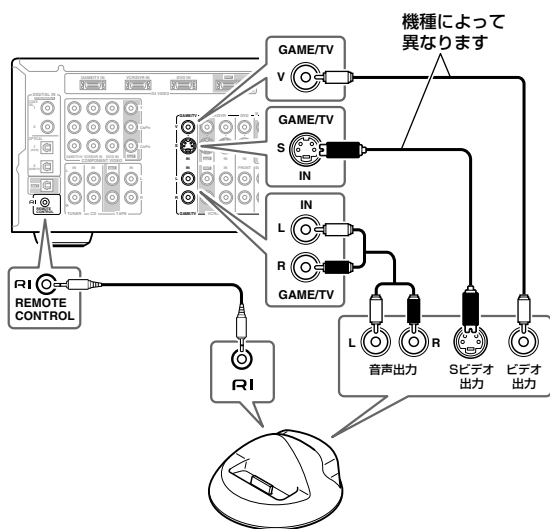
ビデオコードまたは S ビデオコードで、RI ドックの映像出力端子と本機の GAME/TV IN V または S 端子を接続します。

ステップ 2：音声接続をする

オーディオ用ピンコードで、RI ドックの音声出力端子と本機の GAME/TV IN L/R 端子を接続します。

ステップ 3：RI接続をする

RI * ケーブルで、RI ドックのRI端子と本機のRI端子を接続します。

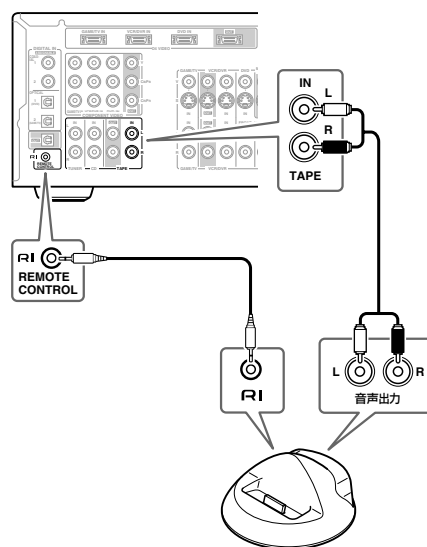
- RI ドックの MODE スイッチは、「HDD」または「DOCK」にしてください。
- 本機の入力表示を「DOCK」に切り換えてください。（☞35 ページ）

音声のみに対応する機器を、RIドックにセットする場合

ステップ 1：音声接続をする

オーディオ用ピンコードで、RI ドックの音声出力端子と本機の TAPE IN L/R 端子を接続します。

ステップ 2：RI接続をする

RI * ケーブルで、RI ドックのRI端子と本機のRI端子を接続します。

- RI ドックの MODE スイッチは、「HDD」または「DOCK」にしてください。
- 本機の入力表示を「DOCK」に切り換えてください。（☞35 ページ）

！ヒント

オンキヨー製 RI ドックと本機をRI接続すると、以下の機能が使えます。

ダイレクトチェンジ機能

オンキヨー製 RI ドックの再生をすると、本機の入力が自動的に「DOCK」に切り換わります。

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンで RI ドックを操作できます。

ご注意

- 機種によって外観や端子が異なります。
- 本機にはRIケーブルは付属していません。RI ドックに付属のケーブルをお使いください。
- RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
- 本機のリモコンで RI ドックを操作するには、リモコンコードを登録する必要があります。（☞54 ～ 57 ページ）

オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのオンキヨー製品にRIケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。(本機には付属していません)
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。21 〜 28 ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

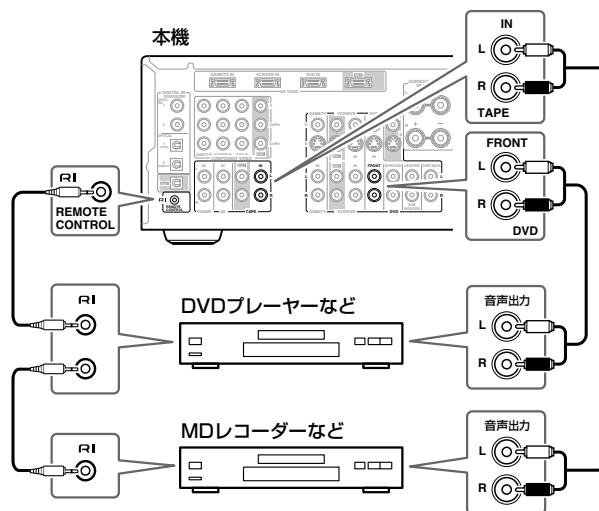
ステップ 1:RIケーブルを接続する

本機と、本機に接続したオンキヨー製品のRI端子を、RIケーブルで正しく接続します。

ステップ 2:ピンコードを接続する

本機と、本機に接続したオンキヨー製品の音声端子をオーディオ用ピンコードで正しく接続します。

ステップ 3:入力表示を切り換える

MD レコーダーや CD レコーダー、RI ドックなどを本機に接続した場合は、入力表示を「MD」「CDR」「DOCK(ドック)」に切り換えてください。(☞35 ページ)

オートパワーオン / オフ機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ダイレクトチェンジ機能

RI接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。
DVD プレーヤーのマルチチャンネル再生をする場合は、MULTI CH(マルチチャンネル) ボタンを押す必要があります。(☞38 ページ)

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンを本機のリモコン受光部に向けて、RI接続した機器を操作することができます。(☞55 ページ)
この機能を使うときは、RI専用リモコンコードを登録してください。(☞54 〜 57 ページ)

ご注意
- 製品によってはRI接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- チューナーのタイマー機能や、録音機器の CD ダビング機能は働きません。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI端子が 2 つある場合、2 つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- 新旧製品の連動動作の対応 / 非対応については、コールセンターにお問い合わせください。

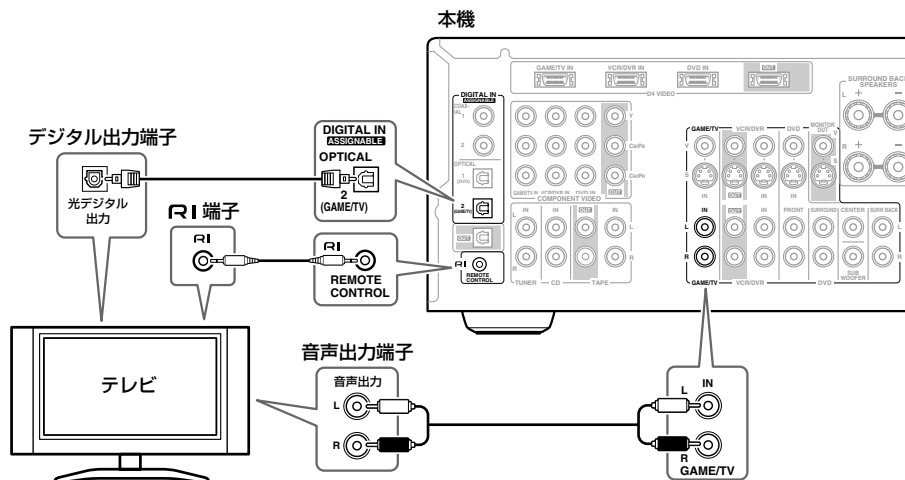
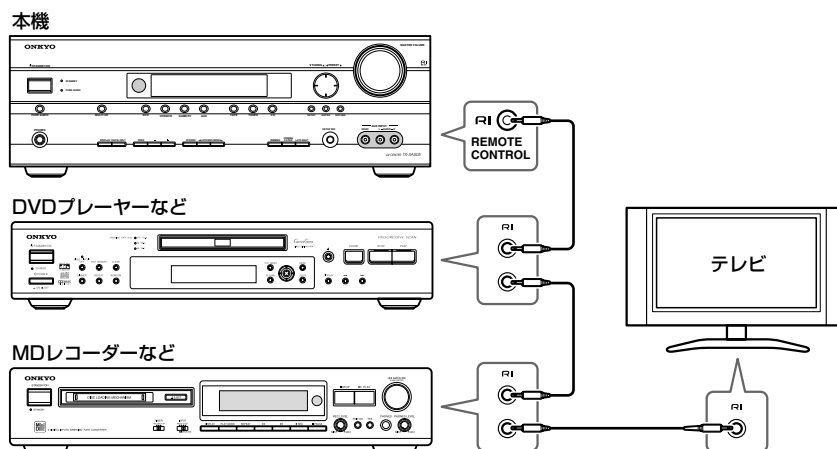
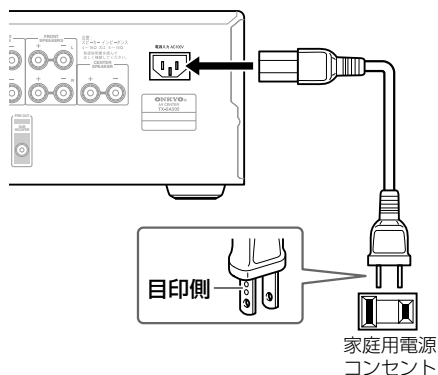
接続をする

RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。
① テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。
② テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）ができます。
③ 本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI端子が装備されているかどうかをご確認ください。
本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

音声接続のしかた

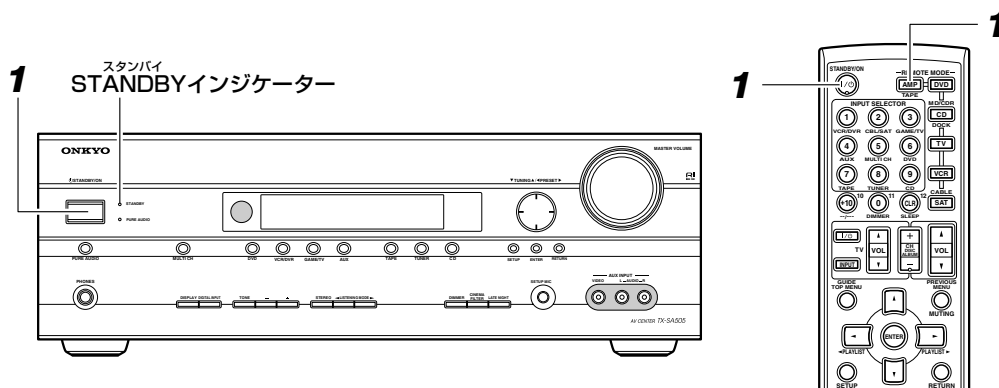
- 本機の GAME/TV（ゲーム／テレビ） 音声入力（GAME/TV IN L/R）端子とテレビの音声出力端子を接続する
- モノラルオーディオコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機の DIGITAL（デジタル） OPTICAL（オプティカル） IN（イン） 2 端子とを接続する
（テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）

- RI端子が 2 つある製品の場合、2 つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
- 他のオンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。

電源コードを接続する

電源コードを接続する前に

すべての接続が完了していることを確認してください。
付属の電源コード以外は使用しないでください。この電源コードは本機専用です。
家庭用電源コンセントに電源プラグを挿し込んだ状態で電源入力AC100V 端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。
電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピュータなどの機器の動作に影響することがあります。コンピュータなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて挿し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

電源を入れる

1

⏻STANDBY/ON
本体
または
AMP
TAPE
STANDBY/ON
リモコン

本体の STANDBY/ON ボタン、またはリモコンの AMP ボタンを押してから STANDBY/ON ボタンを押す

STANDBY インジケーターが消え、表示部が点灯します。

！ヒント

スタンバイ状態のとき、本体の入力切換ボタン、MULTI CH ボタンやリモコンの INPUT SELECTOR ボタンを押しても電源を入れることができます。

スタンバイ状態に戻すには

本体またはリモコンの STANDBY/ON ボタンを押します。

初期設定をする

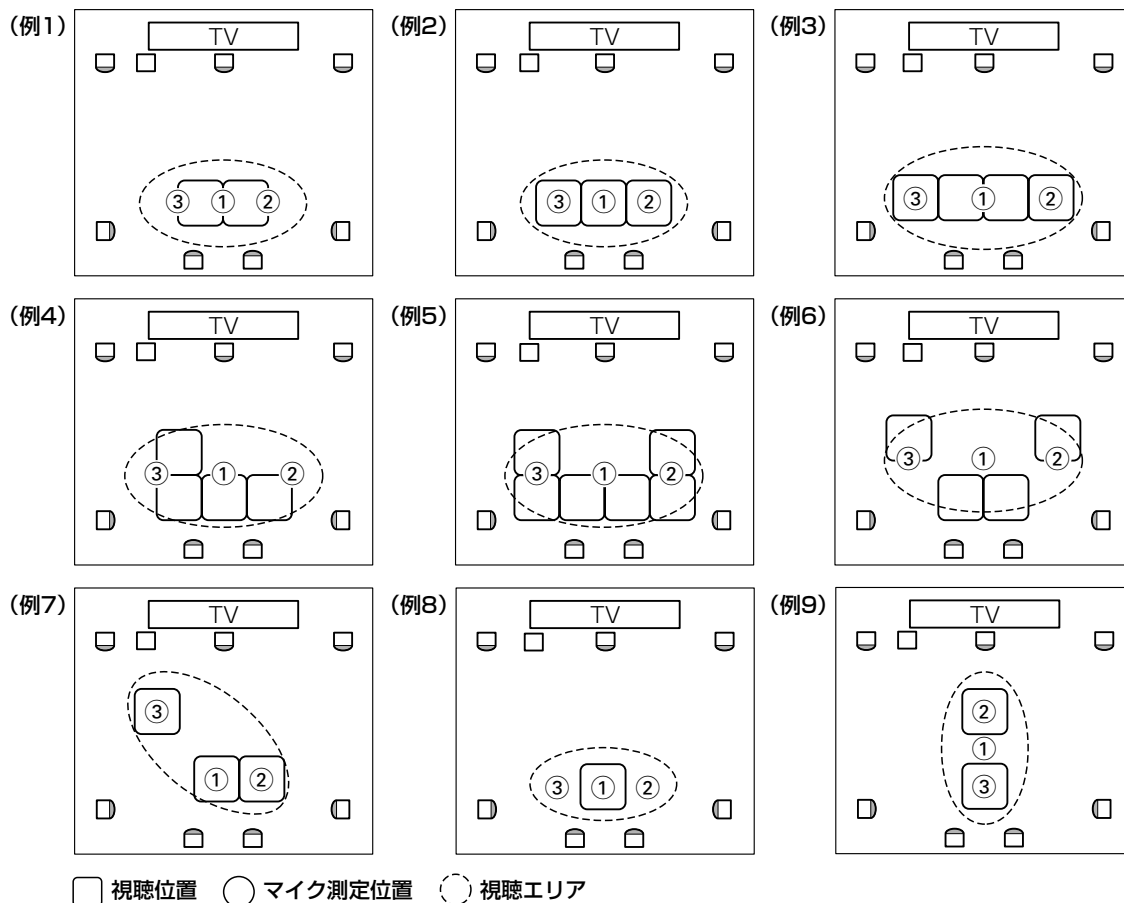
自動スピーカー設定をする（Audyssey 2EQ 機能）

オデッセイ　ツーイーキュー

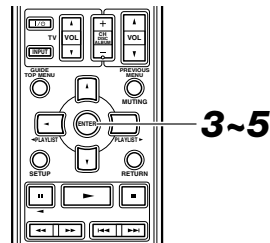
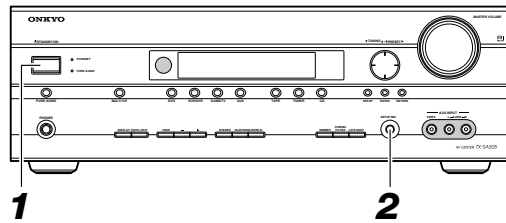
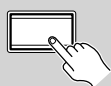
付属の測定用マイクを使って、接続したスピーカーの数、大きさ、クロスオーバー、視聴位置までの距離を測定し、お部屋の環境に最適なスピーカーの設定を自動的に行います。本機が採用している Audyssey 2EQ 機能では、複数の視聴者が同時にホームシアターを楽しむ際の最適な視聴エリアを設定するため、視聴エリア内の 3 つの視聴位置で測定し、測定結果を処理します。設定の前に、使用するすべてのスピーカーの接続と設置を行ってください。

測定のしかた

測定位置は視聴エリア内の 3 箇所です。下図をご参考に測定用マイクを置く位置をご確認ください。具体的な操作手順については、次ページをご覧ください。

① 最初に測定する位置です。視聴エリアの中心、または 1 人で視聴するときに座る位置です。
② 2 番目に測定する位置です。視聴エリアの右側にあたる位置です。
③ 3 番目に測定する位置です。視聴エリアの左側にあたる位置です。
① と ②、① と ③ の間は、1m 程度またはそれ以上はあけるようにしてください。
- すべての測定が終了するまで約 10 分程度かかります。

ご注意

ヘッドホンを接続しているときは、測定できません。

1

本機の電源を入れる

接続したスピーカーの中に 1 台でも 4 Ω（オーム）以上 6 Ω未満のスピーカーがある場合、測定の前にスピーカーインピーダンスを設定してください。（☞34 ページ）

2

付属の測定用マイクを視聴位置に設置してから、マイクのプラグを本機の SETUP（セットアップ） MIC（マイク） 端子に接続する

Audyssey（オデッセイ） インジケーターが点灯します。

```
Set Mic at 1st.
```

前ページの「測定のしかた」の図を参考に、① の位置にマイクを置いてください。

ご注意

- マイクは水平に置いてください。
- それぞれのスピーカーからマイクの間に障害物があると、正しく設定できません。通常の視聴時と同じ環境にしてください。
- MUTING（ミューティング） 機能が設定されていると、ミューティングは解除されます。

！ヒント

視聴するときの耳に近い位置にマイクを設置すると、正確に設定できます。三脚や水平な台を使用すると高さを調節できます。

3

ENTER（エンター） ボタンを押す

自動スピーカー設定が始まります。
接続したスピーカーからテスト音を出しながらマイクで測定します。完了するまでに数分かかります。

```
Now measuring..
```

4

① の位置の測定が終わると、以下の表示が本体表示部に表示されるので、マイクを視聴エリアの右側（②）に置き ENTER ボタンを押す

前ページの「測定のしかた」の図を参考に、② の位置にマイクを置いてください。
完了するまでに数分かかります。

```
Set Mic at 2nd.
```

5

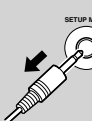
② の位置の測定が終わると、以下の表示が本体表示部に表示されるので、マイクを視聴エリアの左側（③）に置き ENTER ボタンを押す

前ページの「測定のしかた」の図を参考に、③ の位置にマイクを置いてください。
完了するまでに数分かかります。

```
Set Mic at 3rd.
```

すべての測定が終わると、自動的に測定結果を計算し保存します。

```
Calculating 56%
↓
Saving...
```

6

以下の表示が出たら、マイクのプラグを抜く

```
Unplug SetupMic
```

測定が完了すると「スピーカーの音場補正」は、「Audyssey（オデッセイ）」に設定され、Audyssey インジケーターが点灯します。（☞52 ページ）

- 測定を途中で止めるときは、マイクのプラグを抜いてください。

初期設定をする

■ 測定途中に表示されるエラーメッセージについて

正しく測定できないときに、以下の表示が出ることがあります。
原因を取り除いてから、ENTER（エンター）ボタンを押し、再度測定してください。

Noise Error!

測定環境の雑音が大きすぎて測定できません。
雑音の原因を取り除いてください。

Sp Detect Err!

以下の原因が考えられます。
- フロントスピーカーが検出できません。
- サラウンドスピーカーがひとつしか検出できません。
- サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、サラウンドスピーカーが検出できません。
- 右サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、左サラウンドバックスピーカーが検出できません。
- 1 回目の測定でのスピーカー数と、2、3 回目の測定でのスピーカー数が違います。

検出できないスピーカーが正しく接続されているか確認してください。

Writing Error!

測定結果の保存に失敗しました。

ご注意

使用環境によっては、正しく測定されないことがあります。再測定しても結果に変更がない場合は、手動でスピーカー設定を行ってください。（☞48 ～ 52 ページ）

！ヒント

サブウーファーを接続している場合
サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、自動スピーカー設定で認識されない場合があります。このような場合は、サブウーファーの音量を上げ、周波数を最大にした状態で再度測定してください。ただし、音量を上げすぎている（音が割れているような状態）場合も認識されませんので、適切な音量に調節してください。また、カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、「DIRECT（ダイレクト）」の状態にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

スピーカーインピーダンスの設定

接続したスピーカーのインピーダンス（Ω）を設定します。
接続したスピーカーの中に 1 台でも 4 Ω以上 6 Ω未満のスピーカーがある場合はここで設定してください。
ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でインピーダンス（Ω）をご確認ください。

自動スピーカー設定（☞32 ページ）を行う前に設定してください。

ご注意

設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押す

2

▲ / ▼ボタンを押して「0. Hardware（ハードウェア） Setup（セットアップ）」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

0.HardwareSetup

3

◀/▶ ボタンを押して「4 ohms（オーム）」または「6 ohms（オーム）」を選ぶ

4 ohms（オーム）：接続したスピーカーの中に 1 台でも 4 Ω以上 6 Ω未満のスピーカーがある場合に選択します。
6 ohms（オーム）：接続したスピーカーがすべて 6 Ω以上の場合に選択します。

4

SETUP ボタンを押して、終了する

デジタル入力端子の設定

デジタル端子の接続は、ドルビーデジタルや DTS のリスニングモードを楽しむために必要です。各デジタル入力端子は、初期設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

- 接続した機器がデジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「－－－－」にする必要があります。

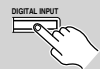
入力	デジタル入力端子の初期設定
DVD	OPT1（オプティカル 1）
VCR/DVR	－－－－（アナログ）
GAME/TV	OPT2（オプティカル 2）
AUX	－－－－（アナログ）
TAPE	－－－－（アナログ）
TUNER	－－－－（アナログ）
CD	－－－－（アナログ）

例：本機後面の OPTICAL 2 端子に CD プレーヤーを接続した場合

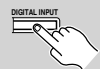
CD のデジタル入力端子の初期設定は「－－－－」（アナログ）のため、「OPT2」に設定を変更します。

1

入力切換ボタンを押して、変更したい機器を選ぶ

2

DIGITAL INPUT ボタンを押す

現在の設定が表示されます。

3

DIGITAL INPUT ボタンをくり返し押して、接続した端子を表示させる

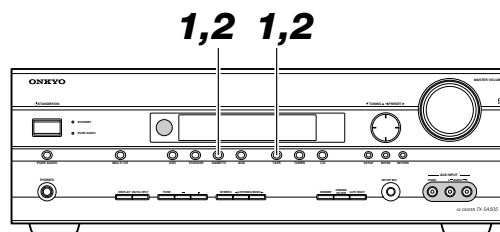
CD　　　:OPT2

COAX1、COAX2、OPT1、OPT2 または「－－－－」（アナログ）から選びます。

約 3 秒後に元の表示に戻り、設定が完了します。

入力表示を切り換える

オンキヨー製のRI端子付き MD レコーダーや CD レコーダー、RI ドックを本機の TAPE 端子や GAME/TV 端子に接続した場合は、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、接続した機器に合わせて入力表示を切り換える必要があります。

1

TAPE
または
GAME/TV

入力切換ボタンの「TAPE」または「GAME/TV」を押し、表示部に「TAPE」または「GAME/TV」を表示させる

TAPE

または

GAME/TV

2

TAPE ボタンまたは GAME/TV ボタンを約 3 秒押し続けて、表示を切り換える

この手順をくり返すと表示が切り換わります。

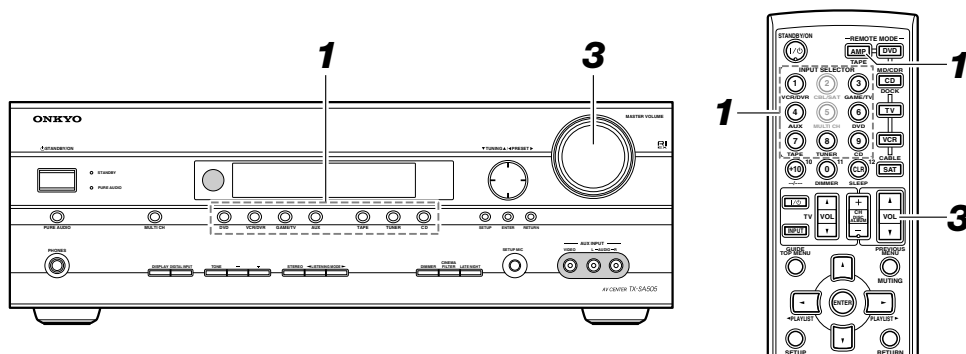
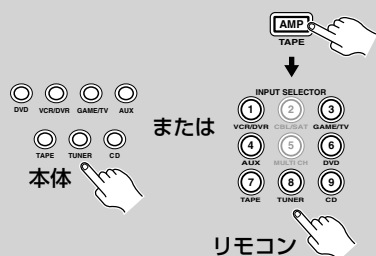
TAPE ボタン：「TAPE」→「MD」→「CDR」→「DOCK」→「TAPE」

GAME/TV ボタン：「GAME/TV」→「DOCK」→「GAME/TV」

ご注意

「DOCK」は、「TAPE」または「GAME/TV」のどちらか片方でしか表示できません。どちらかで「DOCK」の表示に切り換えたときは、もう片方では切り換えることができません。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

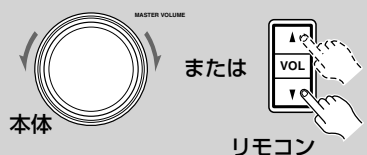
接続した機器を再生する

1

再生する機器を選ぶ

本体の入力切換ボタンを押します。または、リモコンの AMP ボタンを押してから入力切換ボタンを押します。

2

選んだ機器の再生を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。
また、DVD 対応ゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

本体の MASTER VOLUME つまみ、またはリモコンの VOLUME ▲ / ▼ボタンで音量を調整する

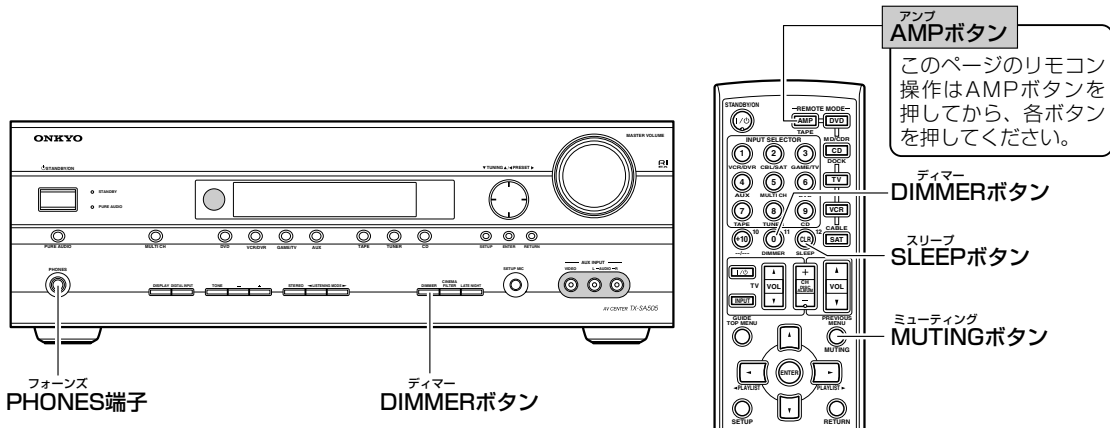
音量は基本的に Min･1･2 ･････ 78･79･Max までの範囲で調整できます。

！ヒント

本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

4

リスニングモードを楽しむ

詳しくは 40 ページをご覧ください。

一時的に音量を小さくする

リモコンの MUTING ボタンを押す

表示部に「MUTING」が点滅します。

■解除するには

もう一度 MUTING ボタンを押してください。
（音量を変えたり、STANDBY/ON ボタンを押した場合にも解除されます。）

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。

本体

または

リモコン

本体またはリモコンの DIMMER ボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

→ やや暗い → 暗い → ふつう

スリープタイマーを使う

リモコンの SLEEP ボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90 分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに 10 分単位で設定時間が短くなります。

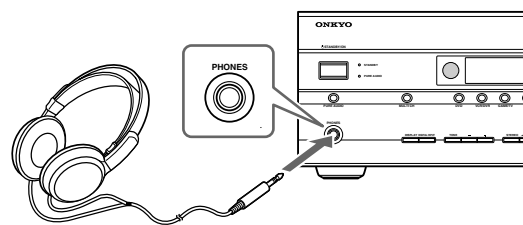
- スリープタイマー設定中は SLEEP インジケーターが点灯します。

■残り時間を確認するには

スリープタイマーが予約されているときに SLEEP ボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が 10 分以下のときに再び SLEEP ボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

■スリープタイマーを解除するには

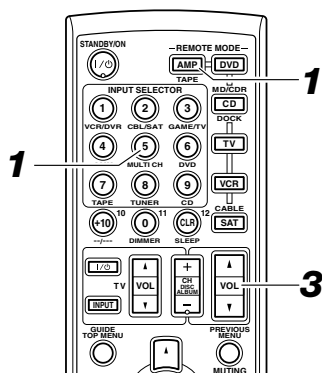
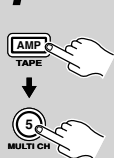
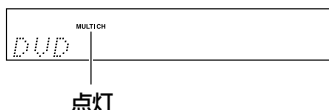
SLEEP インジケーターが消えるまで、くり返し SLEEP ボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

ヘッドホンで聞く

PHONES 端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続する時は音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中は、スピーカーからの音が消えます。
- 「Pure Audio」、「Direct」または「Mono」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo」になります。
- ヘッドホン接続時は、「Pure Audio」、「Direct」、「Stereo」または「Mono」のリスニングモードが選択できます。
- マルチチャンネル入力を選んでいるときは、左右フロントチャンネルの音声のみ聞こえます。

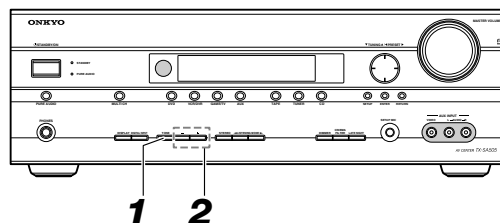
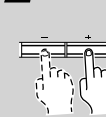
映画・音楽を鑑賞する（応用編）

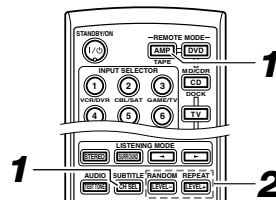
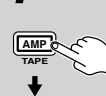
マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVD プレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVD オーディオやスーパーオーディオ CD などの再生をお楽しみいただけます。22 ページの通り正しく接続されていることを確認してください。

1	**AMP ボタンを押してから MULTI CH ボタンを押して、「MULTICH」表示を点灯させる**
2	**DVD プレーヤーを再生する** 実際に本機と接続しているスピーカーの数や「スピーカー環境を設定する」（☞48 ページ）で設定したスピーカーの「有 / 無」に関係なく、ソフトに収録された内容どおり、すべてのチャンネルから出力されます。
3	**VOLUME ▲ / ▼ボタンで音量を調整する** 音量は基本的に Min · 1 · 2 ··· 78 · 79 · Max までの範囲で調整できます。 **！ヒント** 本体の入力切換ボタン、MASTER VOLUME つまみでも操作できます。

ご注意

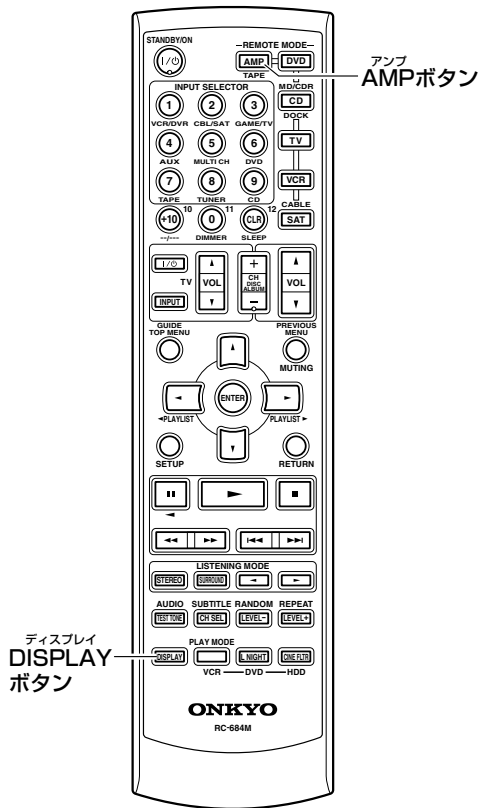
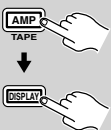
「Multich」を選んでいるときは、Multich、Direct と Pure Audio のリスニングモードを選ぶことができます。

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「Direct」、「Pure Audio」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。

1	**TONE ボタンをくり返し押して、「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ**
2	**＋ / －ボタンを押して、レベルを調整する** お買い上げ時は「0」ですが、－ 10dB ～＋ 10dB の範囲内で 2dB ずつ調整できます。

スピーカーごとの音量を一時的に調整する

再生中、一時的に各スピーカーの音量をお好みに調整することができます。本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1	**リモコンの AMP ボタンを押してから、CH SEL ボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ** ご注意 「スピーカー環境を設定する」（☞48 ページ）で「No」または「None」を選択したスピーカーは調整できません。
2	**LEVEL ＋ / －ボタンを押して、音量を調整する** スピーカーは－ 12 dB ～＋ 12 dB、サブウーファーは－ 15 d B ～＋ 12 d B の範囲で調整できます。

表示を確認する

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押す

本体の DISPLAY ボタンでも操作できます。

- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。
- DISPLAY ボタンを押すたびに、表示内容が右記のように切り換わります。

● 入力信号がアナログのとき

入力ソースと音量 ←→ リスニングモード

STEREO
DVD Stereo

● 入力信号が PCM のとき

→ 入力ソースと音量 → サンプリング周波数＊1 → 入力ソースとリスニングモード → サンプリング周波数＊1 →

PCM
PCM fs : 48 kHz

● 入力信号が PCM 以外のデジタル信号のとき

＊1 入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約 3 秒経過すると、元の表示に戻ります。

＊2 **フォーマット表示の意味**

A : 入力信号に含まれているフロントチャンネルの数
　3: 左フロント、センター、右フロントスピーカーの 3 チャンネル
　2: 左フロント、右フロントスピーカーの 2 チャンネル
　1: モノラル（1 チャンネル）

B : 入力信号に含まれているサラウンドチャンネルの数
　3: 左サラウンド、右サラウンド、サラウンドバックスピーカーの 3 チャンネル
　2: 左サラウンド、右サラウンドスピーカーの 2 チャンネル
　1: モノラル（1 チャンネル）
　0: なし

C : 入力信号に含まれている LFE（低域効果音）の有無
　1: あり
　: なし

たとえば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント 3 チャンネルとサラウンド 2 チャンネル、それに LFE がそれぞれ独立して記録されたソースで、5.1 チャンネルソースであることを表しています。

●入力信号が AAC の音声多重放送（2ヶ国語放送など）のとき

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

リスニングモードを選ぶ

本体のボタンで選ぶ

1

入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

3

または

PURE AUDIO

または

STEREO

LISTENING MODE◀/▶ボタン、PURE AUDIOボタンまたはSTEREOボタンでリスニングモードを選ぶ

LISTENING MODE◀/▶：
対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

PURE AUDIO：
リスニングモードを「Pure Audio」に切り換えます。ピュアオーディオインジケーターが点灯します。
このモードでは、表示部が消灯します。また、ビデオ回路の電源を切るため、映像が出なくなります。PURE AUDIOボタンをもう一度押すと、「PURE AUDIO」は取り消され、もとのリスニングモードに戻ります。

STEREO：
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

リモコンで選ぶ

1

AMPボタンを押してから入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

3

LISTENING MODE
STEREO
SURROUND

STEREOボタン、SURROUNDボタンまたはLISTENING MODE◀/▶ボタンでリスニングモードを選ぶ

STEREO：
リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

SURROUND：
Dolby DigitalやDTSのリスニングモードに切り換えます。

LISTENING MODE◀/▶：
対応できるすべてのリスニングモードに切り換えます。

聴きたいリスニングモードが選べない

- デジタル接続はしましたか？（☞20～27ページ）
  ドルビーデジタルやDTSのリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか？
  ドルビーデジタルやDTSロゴのついたDVDの本編を再生中に、本機のPCM表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定がPCMになっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力できるように設定してください。

入力信号の種類と対応するリスニングモード

入力信号の種類と主なソース ＼ リスニングモード		PCM[*1] またはアナログ	Dolby Digital				DTS/DTS 96/24[*2]				AAC				マルチチャンネル[*6]
			3/2.1 2/2.1	2/0	1/0,1+1	その他	3/2.1 2/2.1	2/0	DTS-ES Discrete	DTS-ES Matrix	3/2.1 2/2.1	2/0	1/0,1+1	その他	
		CD ビデオ ラジオ テレビなど	DVD、ビデオなど				DVD、ビデオ、CDなど				地上/BS/110°CS デジタル放送				DVD
Pure Audio Direct Stereo		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
Mono		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	
Multich															●
PLIIx Movie/Music/Game[*3] Neo:6 Cinema Neo:6 Music		●		●				●				●			
AAC	AAC										●			●	
AAC	AAC+Neo:6 AAC＋Dolby EX AAC+PLIIx Music										●				
AAC	AAC+PLIIx Movie										●				
Dolby	Dolby Digital		●			●									
Dolby	Dolby D+Neo:6 Dolby D EX Dolby D+PLIIx Music		●												
Dolby	Dolby D+PLIIx Movie		●												
DTS	DTS, DTS 96/24						●		●[*5]						
DTS	DTS-ES Discrete								●						
DTS	DTS-ES Matrix									●					
DTS	DTS+Neo:6 DTS+Dolby EX DTS+PLIIx Music						●								
DTS	DTS+PLIIx Movie						●								
オンキヨー独自のリスニングモード	Mono Movie[*4] Orchestra[*4] Unplugged[*4] Studio-Mix[*4] TV Logic[*4] All Ch Stereo Full Mono Theater-Dimensional	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	

*[1] Pure Audio と Direct のとき、PCM でサンプリング周波数が 32、44.1、48kHz の場合はそれぞれ 64、88.2、96kHz として処理されます。また、サンプリング周波数が 64、88.2、96kHz の場合、Pure Audio, Direct、Stereo 以外では 32、44.1、48kHz として処理されます。
*[2] Pure Audio, Direct、Stereo、DTS96/24 のときは、DTS96/24 として処理されます。これら以外では、通常の DTS として処理されます。
*[3] サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、PLII になります。
*[4] サラウンドスピーカーを接続していない場合は、選べません。
*[5] サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTS になります 。

サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選べます。(6.1 または 7.1 チャンネル再生時)

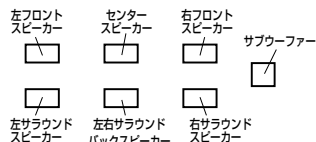
左右サラウンドバックスピーカーを接続しているときだけ選べます。(7.1 チャンネル再生時)

！ヒント

入力信号の種類は、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押して表示部で確認することができます。(☞39 ページ)
AAC などで多重音声の場合は 44 ページの Multiplex（マルチプレックス）の設定で主音声または副音声を選択します。

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わって頂けます。本機には以下のリスニングモードがあります。

下のイラストは、そのリスニングモード時に出力されるスピーカーを表します。

Direct

もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。

Pure Audio

Direct モードに加え、表示部を消してビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にすることで、より原音に忠実な音楽再生を行います。（ビデオ回路の電源を切るため、映像が出なくなります。）

Stereo

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Mono

モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2 言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVD などに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。

Dolby Pro Logic IIx

2 チャンネルで収録された音楽や映画を6.1 から7.1 チャンネルで再生できます。
明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CD や映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。
5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 7.1 チャンネルで再生できます。

- **PL IIx Movie**
  VHS や DVD ビデオ、またはテレビ番組再生時に楽しむことができます。
- **PL IIx Music**
  CD などのステレオ音楽や、ライブを記録した DVD に適しています。
- **PL IIx Game**
  ゲームディスクを楽しむときに使用できます。

Dolby Pro Logic II

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、Dolby Pro Logic IIx のかわりに、このリスニングモードになります。
2 チャンネルで収録された音楽や映画を 5.1 チャンネルで再生できます。

Dolby Digital

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。DOLBY DIGITAL マークのついた DVD、LD などの再生時に楽しむことができます。

Dolby Digital EX/Dolby EX

5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を 6.1/7.1 チャンネルで再生できます。
5.1 チャンネルに背面のサラウンドチャンネルを増やし、6.1/7.1 チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360 度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の 5.1 チャンネル環境で再生することも可能です。5.1 チャンネルで記録された DOLBY DIGITAL マークのついた DVD、LD の再生時は Dolby Digital EX となり、その他のソースでは Dolby EX となります。

DTS

完全に分離させた 5.1 チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。再生するには DTS 出力が可能な DVD プレーヤーが必要です。dts マークのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24

dts 96/24 マークのついた CD、DVD、LD などに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete

DTS にサラウンドバックを追加した、6.1/7.1 チャンネルサラウンドです。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めてすべてのチャンネルが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。
dts ES のついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix

DTS-ES 収録ソフトを 6.1/7.1 チャンネル再生します。
DTS-ES 収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを 6.1/7.1 チャンネルに復元して再生します。
dts ES マークのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS Neo（ネオ）：6

2 チャンネルで収録されたソースを 5.1/6.1/7.1 チャンネルで再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。

映画に最適な Cinema（シネマ）モードと音楽再生に最適な Music（ミュージック）モードが選択できます。

5.1 チャンネルで収録された dts マークのついた DVD や CD の再生時は Neo：6 となり、6.1/7.1 チャンネルで再生します。

- Neo：6 Cinema（シネマ）
  リアルで移動感にあふれたサラウンドが再現され、2 チャンネルの VHS や DVD ビデオ、テレビ番組に適しています。
- Neo：6 Music（ミュージック）
  サラウンドチャンネルを使用することで通常の 2 チャンネル出力では得られない自然な音場を生み出します。2 チャンネルで収録された CD などに適しています。

AAC

MPEG（エムペグ）-2 AAC 方式で圧縮されたデジタルデータで、最大 5.1 チャンネルのサラウンド音声を提供します。
地上デジタル、BS/CS デジタル放送などの AAC ソースを再生するために使用します。

Multich（マルチチャンネル）

アナログのマルチチャンネル接続をしているときに使用できるリスニングモードです。

■オンキヨー独自のリスニングモード

Mono（モノ） Movie（ムービー）

古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施した音を出力します。
モノラルでも臨場感をお楽しみ頂けます。

Orchestra（オーケストラ）

クラシックやオペラに適したモードです。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。
大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged（アンプラグド）

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

Studio（スタジオ）-Mix（ミックス）

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

TV Logic（ロジック）

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All Ch（オールチャンネル） Stereo（ステレオ）

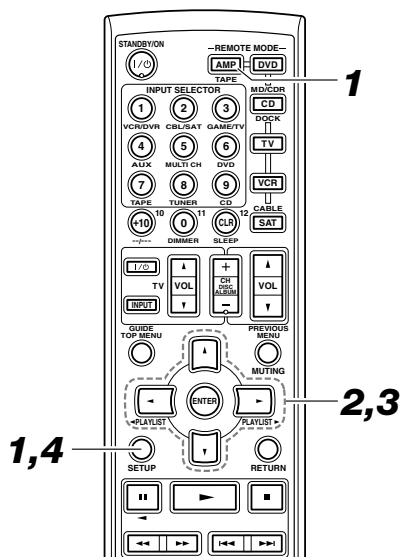
BGM として音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

Full（フル） Mono（モノ）

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聞くことができます。

Theater（シアター）-Dimensional（ディメンショナル） または

2 つまたは 3 つのスピーカーであたかも 5.1 チャンネル再生しているようなバーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。

設定をする（リスニングモード編）

音響効果の設定をする（Audio Adjust メニュー）

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに設定することができます。

1

AMP ボタンを押してから、SETUP ボタンを押す

2

▲ / ▼ボタンを押して「4. Audio Adjust」を選び、ENTER ボタンを押す

```
4.Audio Adjust
```

3

▲ / ▼ボタンで設定したい項目を選び、◀/▶ ボタンで調整する

4

SETUP ボタンを押す

設定が終了します。

本体の SETUP ボタン、カーソル▲/▼/◀/▶/ENTER ボタンでも操作することができます。

主音声と副音声を切り換える

Multiplex

多重音声や多重言語の放送などで音声や言語を選択します。

DISPLAY ボタンを押して、表示部に音声の数が「1 ＋ 1」と表示されたら音声多重放送です。

Main：主音声を出力します。
（お買い上げ時の設定）

Sub：副音声を出力します。

M/S：主音声と副音声の両方を出力します。

Mono 時の設定をする

Mono Input Ch

2 チャンネルで収録された入力信号を「Mono」リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

L ＋ R：左右チャンネルの信号を両方再生します。
（お買い上げ時の設定）

L：左チャンネルの信号を再生します。

R：右チャンネルの信号を再生します。

Dolby Pro Logic II Music/Dolby Pro Logic IIx Music 時の音質を調整する

ご注意

- 2 チャンネル収録された入力信号のみに効果があります。
- スピーカーを 2 チャンネル（左右フロントスピーカーのみ）に設定しているときは、設定できません。

Panorama

前方の音場を横方向に広げることができます。

お買い上げ時の設定は「Off」に設定されています。

On：パノラマ効果をオンにします。

Off：パノラマ効果をオフにします。

Dimension（ディメンション）

音場を前方または後方へ移動させることができます。
初期設定は「0」に設定されています。

！ヒント

- 「0」を中心に、− 1、− 2、− 3 にすると後方へ、＋ 1、＋ 2、＋ 3 にすると前方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスがよくなります。

Center Width（センター ウイズス）

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic II/Dolby Pro Logic IIx では、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）
この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。初期設定は「3」ですが、0 〜 7 の範囲で選択できます。

DTS Neo:6 Music（ネオ ミュージック）時の音質を調整する

Center Image（センター イメージ）

サラウンドスピーカーを接続していないときは、設定できません。
「DTS Neo : 6 Music（ミュージック）」は、2 チャンネルで収録されたソースを 6 チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。初期設定は「2」ですが、0 〜 5 の範囲で選択できます。

！ヒント

- 「0」は左右のチャンネルから半分（−6dB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に効果的です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

Dolby Digital（ドルビー デジタル）EX 信号の再生方法を設定する

Dolby EX（ドルビー）

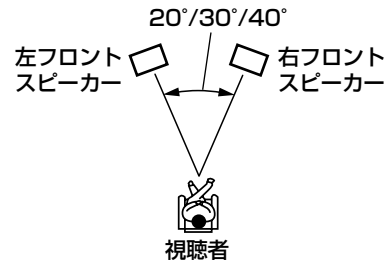
サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、設定できません。

Auto（オート）：ドルビーデジタルの 6.1 チャンネル識別信号があるときは、リスニングモードが Dolby Digital EX に切り換わります。
（お買い上げ時の設定）

Manual（マニュアル）：「PL IIx Movie」、「PL IIx Music」、「Dolby Digital」、「Dolby Digital EX」のリスニングモードが選べます。

シアターディメンショナル時の調整をする (Theater-Dimensional（シアター ディメンショナル）)

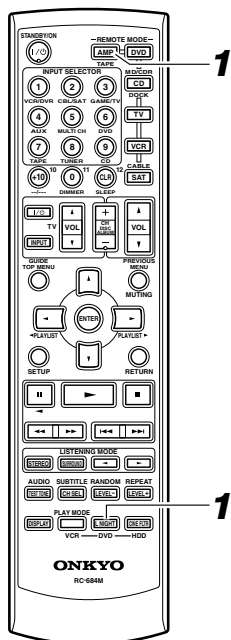
Listening Angle（リスニング アングル）（Lstn Angl）

視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度を設定します。シアターディメンショナルはこの角度をもとにバーチャル処理を行います。左右フロントスピーカーから等距離で、かつ選択したリスニングアングルに近い視聴位置が理想です。
Narrow（ナロー）（20°）、Middle（ミドル）（30°）または Wide（ワイド）（40°）を選べます。お買い上げ時の設定は Middle です。

マルチチャンネル再生時の設定をする

Subwoofer Sensiivity（サブウーファー センシティヴィティー）（SW Sens）

DVD プレーヤーによっては、マルチチャンネル出力時に LFE（低域効果音）チャンネルが＋ 15dB 高く出力されるものがあり、サブウーファーの音量が大きくなることがあります。
この設定では、ご使用になる DVD プレーヤーのマルチチャンネル時の出力レベル設定に合わせた調整を行うことにより、適切な音量バランスでのマルチチャンネル再生が可能となります。
0（お買い上げ時の設定）、＋ 5、＋ 10、＋ 15dB から選択できます。
サブウーファーが大きすぎる場合は、＋ 10dB や＋ 15dB を選んでください。

レイトナイト機能を使う（ドルビーデジタルのみ）

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1 リモコンの AMP ボタンを押してから、L NIGHT ボタンを（くり返し）押す

Late Night:High

Off ：レイトナイト機能をオフにします。

Low ：音量幅を小さくします。

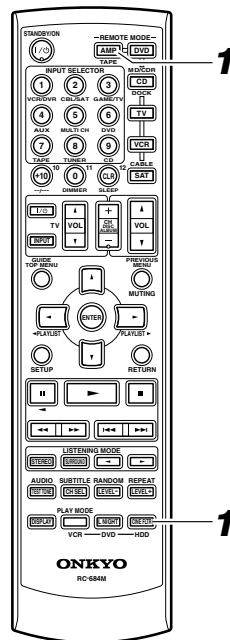
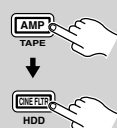
High ：音量幅をさらに小さくします。

ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

●本体の LATE NIGHT ボタンでも操作できます。

シネマフィルター機能を使う

高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。シネマフィルターの設定は、リスニングモードが Dolby Digital、Dolby Digital EX、Dolby Pro Logic II Movie、Dolby Pro Logic IIx Movie、DTS、DTS-ES、DTS+Neo:6、DTS Neo:6 Cinema、DTS 96/24、DTS＋Dolby EX、AAC、AAC＋Dolby EX、Dolby D+Neo:6、AAC+Neo:6 の場合に働きます。

1 リモコンの AMP ボタンを押してから、CINE FLTR ボタンを（くり返し）押す

On ：高音域の補正をします。

Off ：シネマフィルター機能をオフにします。

●本体の CINEMA FILTER ボタンでも操作できます。

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護された DVD などは録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL IN（COAXIAL）または（OPTICAL）の入力端子から入力されたデジタル信号は、DIGITAL OUT（OPTICAL）の出力端子からのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- 録音·録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースが録音·録画されます。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力のみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- DTS 対応の CD や LD をアナログ録音すると、DTS 信号はノイズとして録音されることになります。
- VCR/DVR IN 端子に入力された画像や音声は、VCR/DVR OUT 端子に出力されません。同様に TAPE IN 端子に入力された音声は、TAPE OUT 端子に出力されません。これは、出力と入力にループができて機器が故障するのを防ぐためです。
- リスニングモードが Pure Audio のとき、ビデオ回路の電源がオフになるため、VCR/DVR OUT 端子からも映像は出力されません。録画するときは、他のリスニングモードを選んでください。

再生しながら録音·録画する

現在再生中の音楽や映画を録音·録画します。

1 入力切換ボタンを押して録音・録画する機器（再生側）を選ぶ

2 録音・録画する機器（録音側）の準備をする

- 録音・録画する機器を録音待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録音機器で行ってください。
- 録音のしかたについては、録音・録画機器の取扱説明書をご覧ください。

3 録音・録画を始める

手順 ***1*** で選んだ再生機器を再生します。

異なるソースの音楽と映像を録音·録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD 端子に接続した CD プレーヤーの音声と AUX INPUT 端子に接続したビデオカメラの映像を VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキで録音·録画する例です。

1 録音する機器（再生側）の準備をする

例：AUX INPUT 端子に接続したビデオカメラにテープをセットする

2 VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

3 入力切換ボタンの「AUX」を押す

4 入力切換ボタンの「CD」を押す

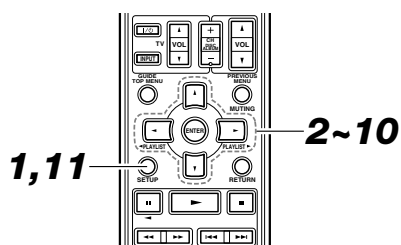
音声出力は CD に変わりますが、映像出力は手順 ***3*** で選んだ AUX のまま変わりません。VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、ビデオカメラと CD プレーヤーの再生を始めます。
映像はビデオカメラから録画し、音声は CD プレーヤーから録音されます。

ご注意

録音できるのは TUNER、TAPE、CD 端子に接続した機器の音声のみです。

設定をする（応用編）

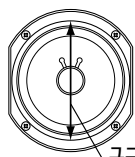
スピーカーの設定をする（応用編）

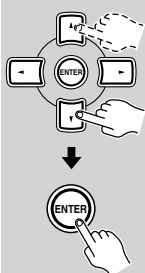
「Double Bass」以外の設定は、自動スピーカー設定（☞32 ページ）で測定されています。自動スピーカー設定の後に使用するスピーカーを変更した場合や、手動で設定したい場合は、ここで設定してください。自動設定の結果もここで確認できます。

スピーカー環境を設定する

この項目は、自動スピーカー設定（☞32 ページ）で測定されています。

マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

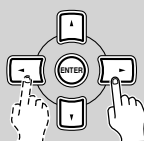
接続したスピーカーの「有 / 無」と「大きさ」を設定します。

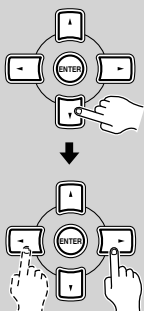
スピーカーの大きさの目安

目安としては、お手持ちのスピーカーのユニット部が直径 16cm 以上の場合は「Large」、それ以下の場合は「Small」を選んでください。

1 AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押す

2 ▲ / ▼ボタンを押して「1. Sp Config（スピーカー環境）」を選び、ENTER ボタンを押す

「Subwoofer」の設定が表示されます。

Subwoofer:Yes

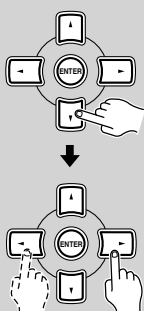
3 ◀/▶ ボタンを押して、サブウーファーの「有 / 無」を選ぶ

Yes：サブウーファーを接続している場合

No：サブウーファーを接続していない場合

4 ▼ボタンを押して「Front」を選び、◀/▶ ボタンでフロントスピーカーの大きさを選ぶ

Small：小型のフロントスピーカーを接続している場合

Large：大型のフロントスピーカーを接続している場合

ご注意

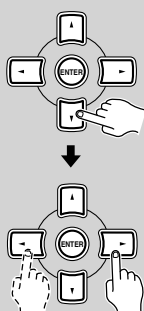
手順 **3** で「No」を選択した場合、フロントスピーカーは「Large」に固定されるため、この項目は表示されません。

5 ▼ボタンを押して「Center」を選び、◀/▶ ボタンでセンタースピーカーの設定をする

Small：小型のセンタースピーカーを接続している場合

Large：大型のセンタースピーカーを接続している場合

None：センタースピーカーを接続していない場合

ご注意

手順 **4** で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

6 ▼ボタンを押して「Surround」を選び、◀/▶ ボタンで左右サラウンドスピーカーの設定をする

Small：小型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合

Large：大型の左右サラウンドスピーカーを接続している場合

None：左右サラウンドスピーカーを接続していない場合

ご注意

手順 **4** で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

7

▼ボタンを押して「Surr Back」を選び、◀/▶ ボタンでサラウンドバックスピーカーの設定をする

Small ：小型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合

Large ：大型のサラウンドバックスピーカーを接続している場合

None ：サラウンドバックスピーカーを接続していない場合

ご注意

- 手順 *6* で「None」を選択した場合は、この項目は表示されません。
- 手順 *6* で「Small」を選択した場合は、「Large」を選択することはできません。

8

▼ボタンを押して「SurrBack ch」を選び、◀/▶ ボタンでサラウンドバックスピーカーの数を設定する

1ch ：接続したサラウンドバックスピーカーが 1 つの場合（SURROUND BACK SPEAKER L 端子に接続してください。）

2ch ：接続したサラウンドバックスピーカーが 2 つの場合

ご注意

手順 *7* で「None」を選択した場合は、この項目は表示されません。

▷ 手順 *9* に続く

ご注意

この設定は、マルチチャンネル入力時には反映されません。

低音域の設定（クロスオーバー）

この項目は、自動スピーカー設定（☞32 ページ）で測定されています。

マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

組み合わせるスピーカーの再生周波数帯域にあわせて、サブウーファーやメインスピーカーに低音を割り振る基準値を設定します。
スムーズな音のつながりにより、効果的な低域再生が可能となります。

9

▼ボタンを押して「Crossover」を選び、◀/▶ ボタンで設定する

目安としてサブウーファーがある場合は、フロントスピーカーのユニット部の直径を、サブウーファーが無い場合は「1.Sp Config（スピーカー環境）」（☞32 ページ）で最初に「Small」に設定したスピーカーユニットの直径を目安にします。
より細かな設定をする場合は、組み合わせるスピーカーの再生周波数帯域の下限を、そのスピーカーの取扱説明書などで確認してください。

ユニット部の直径	クロスオーバー設定値
20 cm 以上	40、50、60
16 ～ 20cm	80
13 ～ 16cm	100（初期設定）
9 ～ 13cm	120
9 cm 以下	150、200

▷ 手順 *10* に続く

Double Bass の設定

この設定は、自動スピーカー設定（☞32 ページ）では、測定されません。

マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

「1.Sp Config（スピーカー環境）」（☞48 ページ）でサブウーファーを「Yes（有り）」にしていて、フロントスピーカーを「Large」に設定している場合、サブウーファーをさらに強調させることができます。

10

▼ボタンを押して「Double Bass」を選び、◀/▶ ボタンで設定する

On ：サブウーファーを強調します。

Off ：サブウーファーを強調しません。

11

SETUP ボタンを押す

設定が終了したら、SETUP ボタンを押します。

！ヒント

本体の SETUP ボタン、▲ / ▼ /◀/▶ ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

視聴位置からスピーカーまでの距離設定（スピーカーディスタンス）

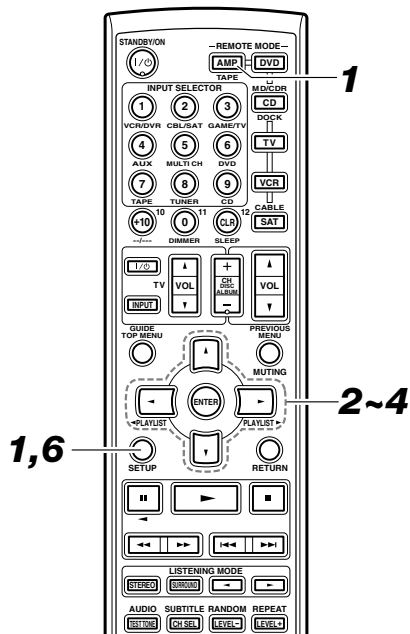
この項目は、自動スピーカー設定（☞32 ページ）で測定されています。

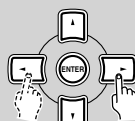
マルチチャンネル再生時やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

1

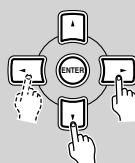
AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押す

2

▲ / ▼ボタンを押して「2. Sp Distance」を選び、ENTER ボタンを押す

3

「Unit（単位）」を表示中に、◀/▶ボタンで設定する単位を選ぶ

meters：距離をメートルで設定する。0.3 m単位で 0.3 mから 9 mの範囲で設定できます。

feet：距離をフィートで設定する。1ft 単位で 1ft から 30ft の範囲で設定できます。

4

▼ボタンを押して「Front」を選び、◀/▶ ボタンで距離を設定する

フロントスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

5

手順 *4* をくり返し、接続したすべてのスピーカーの距離を設定する

Center → Surr Right → Surr Back R → Surr Back L → Surr Left → Subwoofer

！ヒント

- センタースピーカー、サブウーファーはフロントスピーカーで設定した距離の± 1.5 mの範囲で調整できます。
- 左右サラウンドスピーカー、左右サラウンドバックスピーカーはフロントスピーカーで設定した距離の－ 4.5 mから＋ 1.5 mの範囲で調整できます。たとえば、フロントスピーカーを 6 mに設定した場合、1.5 mから 7.5 mの範囲で調整できます。

6

SETUP ボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったら SETUP ボタンを押します。

！ヒント

本体の SETUP ボタン、▲ / ▼ /◀/▶ ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ご注意

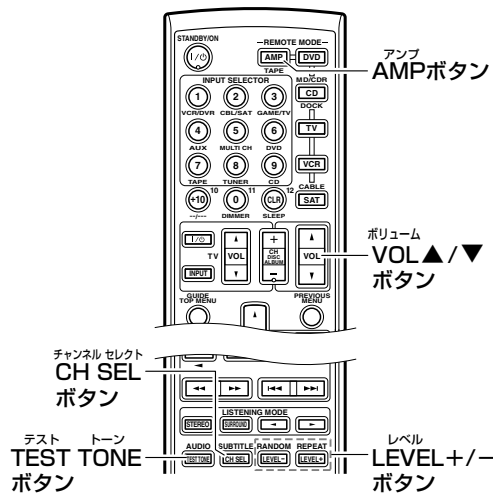
- 「1. Sp Config（スピーカー環境）」（☞48 ページ）の設定で、「No」または「None」を選択したスピーカーは、選択できません。
- この設定は、マルチチャンネル入力時には反映されません。

スピーカーの音量レベル調整（テストトーン）

> この項目は、自動スピーカー設定（☞32 ページ）で測定されています。

ミューティング中やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

各スピーカーからのテスト音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。

1

リモコンの AMP(アンプ) ボタンを押してから、TEST TONE(テスト トーン) ボタンを押す

左フロントスピーカーから「ザー」というテストトーンが出力されます。

2

VOL(ボリューム) ▲ / ▼ボタンで音量を調整する

テストトーンは小さめなので良く聞こえる音量に VOL ▲ / ▼ボタンで調整してください。

3

CH SEL(チャンネルセレクト) ボタンでスピーカーを切り換え、LEVEL(レベル) ＋ / －ボタンでテストトーンを調整する

すべてのスピーカーのテストトーンが同じに聞こえるように調整します。

- スピーカーは－ 12dB ～＋ 12dB、サブウーファーは－ 15dB ～＋ 12dB の範囲内で調整できます。
- CH SEL ボタンを押さないときは、ボタン操作後、約 3 秒間ごとにスピーカーは自動的に切り換わります。

4

手順 *3* をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテストトーンを調整する

テストトーンは次の順で出力されます。

左フロントスピーカー → センタースピーカー → 右フロントスピーカー → 右サラウンドスピーカー → 右サラウンドバックスピーカー → 左サラウンドバックスピーカー → 左サラウンドスピーカー → サブウーファー → 左フロントスピーカー

- 「1. Sp Config(スピーカーコンフィグ)（スピーカー環境）」の設定で「No(ノー)」または「None(ナン)」を選択したスピーカーは設定できません。

5

TEST TONE ボタンを押す

設定が終了します。

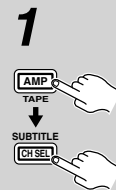
ご注意

手順 *2* でいつも聞く音量よりも大きくした場合は、VOL ▼ボタンで音量を戻してください。

SETUP(セットアップ) ボタンを使って設定することもできます。

本体の SETUP ボタンを押し、▲ / ▼ボタンで「3. Level Cal(レベルキャリブレーション)」を選び、ENTER(エンター) ボタンを押します。テストトーンが出力されますので、◀/▶ ボタンで調整してください。次のスピーカーに切り換えるには▼ボタンを押します。

ヘッドホンの音量を調整する

ヘッドホン接続中に、左右の音量をお好みに調整することができます。スタンバイ状態にしても設定を記憶しています。

1

リモコンの AMP ボタンを押してから CH SEL ボタンを押して、「HP Left(ヘッドホン レフト)」（左）または「HP Right(ライト)」（右）を選ぶ

2

LEVEL ＋ / －ボタンを押して、音量を調整する

－ 12 d B ～ +12 d B の範囲で調整できます。

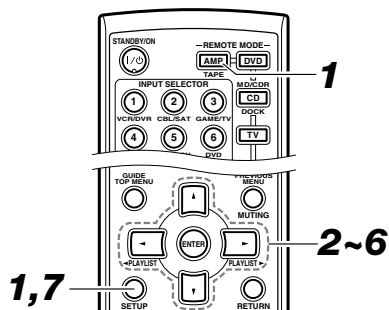
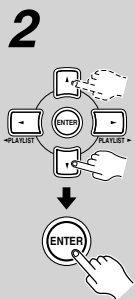
スピーカーの音場補正

この項目は、自動スピーカー設定（☞32 ページ）で測定され、Audyssey に設定されています。

接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は 51 ページの方法で調整しますが、ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押す

2

▲ / ▼ボタンを押して「5. Equalizer」を選び、ENTER ボタンを押す

3

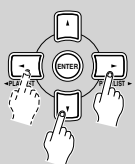
◀/▶ ボタンを押して設定を選ぶ

Off：すべての音域で同じ音場設定になります。

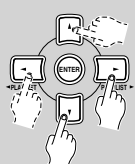
Audyssey：自動スピーカー設定で測定された音場設定になります。Audyssey インジケーターが点灯します。自動スピーカー設定を行ってから選択してください。

Manual：お好みで設定できます。

「Manual」を選んだ場合は、手順 ***4*** に進みます。「Off」または「Audyssey」を選んだ場合は、手順 ***7*** に進みます。

4

▼ボタンを押して「Ch（チャンネル）」を選び ◀/▶ ボタンを押してスピーカーを選ぶ

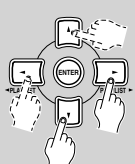
Ch :Front

5

▲ / ▼ボタンで「調整したい音域（周波数）」を選び、◀/▶ ボタンで調整する

− 6dB 〜＋ 6dB の範囲で調整できます。

！ヒント

80Hz など、低い周波数は低音域、8000Hz などの高い周波数は高音域を表します。

6

▲ボタンを押して「Ch（チャンネル）」を選び、◀/▶ ボタンで他のスピーカーを選ぶ

手順 ***5,6*** をくり返し、接続したすべてのスピーカーを設定します。

7

SETUP ボタンを押す

すべてのスピーカーの設定が終わったら SETUP ボタンを押します。

！ヒント

本体の SETUP ボタン、▲ / ▼ /◀/▶ ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ご注意

- Direct と Pure Audio のリスニングモードのときは、効果がありません。
- フロント、センター、サラウンド、サラウンドバックスピーカーは、80Hz、250Hz、800Hz、2500Hz、8000Hz の音域を調整できます。サブウーファーは、40Hz、80Hz、160Hz の音域を調整できます。

デジタル入力モードをDTS、PCMに固定する

「デジタル入力端子の設定（☞35 ページ）」でデジタル入力を割り当てた機器は、デジタル信号を優先して再生します。DTS や PCM 信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、以下の設定をおすすめします。

1 本体の入力切換ボタンで設定する機器を選ぶ

2 本体の DIGITAL INPUT ボタンを約 3 秒押し続ける

現在のデジタル入力モード「Auto」が表示されます。

3 「Auto」表示中（約 3 秒間）に DIGITAL INPUT ボタンをくり返し押して、デジタル入力モードを選ぶ

デジタル入力モードが DTS や PCM に固定されているときは、それぞれのインジケーターが表示部に点滅します。

Auto（初期設定）：
入力される信号に適したデジタル信号を優先して再生します。デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

DTS：
Auto で DTS-CD を再生するとき DTS 信号を識別して読み取る間や、CD の早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS 以外の音声が入力されても音は出ません。

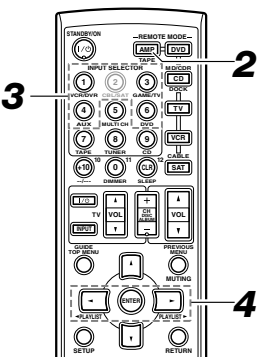
PCM：
Auto で CD などの PCM の曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM 以外の音声が入力されても音は出ません。

ご注意

DTS 対応の CD や LD を再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択するとノイズが出力されます。

- 「デジタル入力端子の設定」（☞35 ページ）を変更すると、上記で設定した内容は、Auto（初期設定）に戻ります。

映像と音声の再生にズレがあるとき

映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で映像信号と音声信号を同期させることができます。0 ～ 100ms（ミリセカンド：千分の 1 秒）の範囲を 20ms ステップで、音声の遅延を調整することができます。

1 調整したい入力を再生する

たとえば DVD の映像が音声より遅れている場合は、DVD を再生します。

2 リモコンの AMP ボタンを押す

3 調整したい入力の入力切換ボタンを約 4 秒間押し続ける

本体の表示部が設定表示に切り換わります。

A/V Sync : 20ms

この操作は「DVD」、「VCR/DVR」、「GAME/TV」、「AUX」ボタンで働きます。

4 ◀/▶ ボタンで設定を調整する

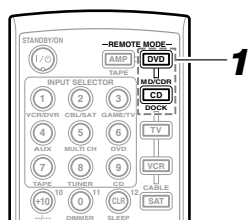
再生される映像を見ながら調整します。0 ～ 100ms の範囲を 20ms ステップで調整できます。映像と音声が同期するように、音声の遅延を調整してください。

本機のリモコンで他の製品を操作する

リモコンコードを登録する

4 桁のリモコンコードを登録することにより、本機に付属のリモコン（RC-684M）で、本機以外の AV 機器（DVD、CD、テレビ、ビデオなど）を操作することができます。

オンキヨー製品を登録するとき

REMOTE MODE ボタンの「DVD」ボタンと「CD/MD/CDR/DOCK」ボタンに、本機に付属のリモコンで操作するオンキヨー製品を登録してください。

1. オンキヨー製品が登録できるボタン

ボタンごとに、それぞれ 1 つのリモコンコードが登録できます。

「DVD」ボタン
以下のいずれか 1 つのリモコンコードが登録できます。
オンキヨー製 DVD プレーヤー：0627
オンキヨー製 DVD プレーヤー（RI専用）：1612

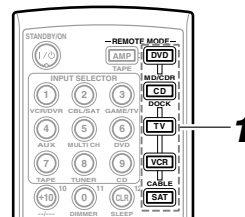
「CD/MD/CDR/DOCK」ボタン
以下のいずれか 1 つのリモコンコードが登録できます。
オンキヨー製 CD プレーヤー：1817
オンキヨー製 CD プレーヤー（RI専用）：1327
オンキヨー製 MD レコーダー：0868
オンキヨー製 MD レコーダー（RI専用）：1808
オンキヨー製 CD レコーダー：1323
オンキヨー製 CD レコーダー（RI専用）：1322
オンキヨー製 RI ドック：2990
オンキヨー製 RI ドック（RI専用）：1993

2. リモコンコードを登録する ☞55 ページ

！ヒント　オンキヨー製品のリモコンコードについて

- **RI専用リモコンコード**
  本機とオンキヨー製品をRI接続したときは、本機のリモコン受光部にリモコンを向けて操作することができます。この場合は、RI専用リモコンコードを登録してください。
- **一般的なリモコンコード**
  RI接続していないとき、または接続したオンキヨー製品にRI端子がないときは、一般的なリモコンコードを登録してください。リモコン操作は他社製品を操作するときと同じく、登録した機器のリモコン受光部に向けて行います。

他社製品を登録するとき

「AMP/TAPE」ボタン以外の REMOTE MODE ボタンに、本機に付属のリモコンで操作をする他社製品のリモコンコードを登録してください。

1. 他社製品が登録できるボタン

ボタンごとに、それぞれ 1 つのリモコンコードが登録できます。

「DVD」ボタン
DVD プレーヤーのリモコンコードが登録できます。

「CD/MD/CDR/DOCK」ボタン
CD プレーヤー、MD レコーダー、CD レコーダーのいずれか 1 つのリモコンコードが登録できます。

「TV」ボタン
テレビのリモコンコードが登録できます。

「VCR」ボタン
ビデオデッキ、DVD レコーダーのリモコンコードが登録できます。

「SAT/CABLE」ボタン
衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーのリモコンコードが登録できます。

2. リモコンコードを調べる ☞56、57 ページ

3. リモコンコードを登録する ☞55 ページ

お買い上げ時の設定

お買い上げ時の設定では、「DVD」ボタンにオンキヨー製 DVD プレーヤー、「CD/MD/CDR/DOCK」ボタンにオンキヨー製 CD プレーヤーが登録されています。

「DVD」ボタン
オンキヨー製ＤＶＤプレーヤー：0627

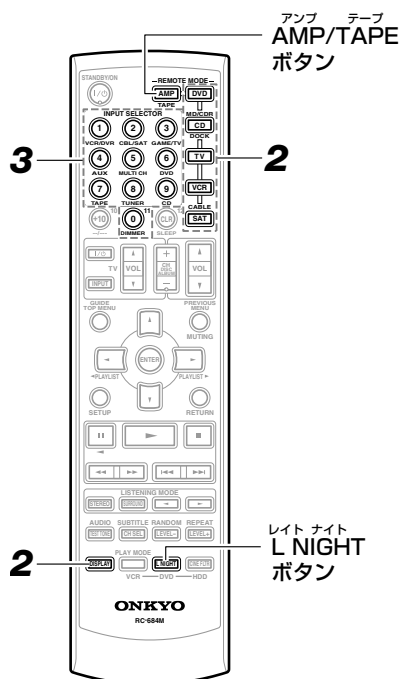
「CD/MD/CDR/DOCK」ボタン
オンキヨー製 CD プレーヤー：1817

その他のボタンには登録されていません。

リモコンコードを登録する

本機に付属のリモコンで他社の製品を操作するには、**他機（DVD、CD、テレビ、ビデオなど）のリモコンコード（4桁）を登録する必要があります。**
リモコンコード表は 56、57 ページをご覧ください。
それぞれのカテゴリーからコードを選んでください。

ご注意

- AMP/TAPE ボタンには登録できません。
- 製品によっては動作しない場合があります。
- オンキヨー製の MD レコーダー、CD レコーダー、RI ドックを操作するときは、入力表示を変更してください。（☞ 35 ページ）

「REMOTE/MODE」ボタンの初期設定（お買い上げ時の設定）の戻しかた

1. 初期設定に戻したい REMOTE MODE ボタンを押しながら、L NIGHT ボタンを 3 秒間押します。
2. もう一度その REMOTE MODE ボタンを押すと、REMOTE MODE ボタンが 2 回点滅して、初期設定に戻ります。

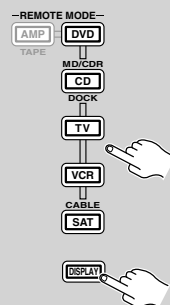
リモコンを初期設定に戻すには

お買い上げ時と同じ状態に戻すには、以下の操作をしてください。

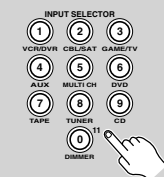
1. AMP/TAPE ボタンを押しながら、L NIGHT ボタンを 3 秒間押します。
2. もう一度 AMP/TAPE ボタンを押すと、AMP/TAPE ボタンが 2 回点滅して初期設定に戻ります。

1

登録する他機のメーカー別リモコンコード（4 桁）を 56、57 ページのリモコンコード表で確かめる

2

登録したい REMOTE MODE ボタンを押しながら、DISPLAY ボタンを 3 秒間押す

REMOTE MODE ボタンが点灯します。

3

30 秒以内に、数字ボタンで 4 桁のリモコンコードを入力する

REMOTE MODE ボタンが 2 回点滅します。

4

他機を操作する

登録した機器に向けて操作してください。

RI専用リモコンコードの場合

オンキヨー製品のRI専用リモコンコードを登録したときは、本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

正しく動作しない場合は、もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある機器は、他のコードも試してください。

本機のリモコンで他の製品を操作する

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、1 つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

- 形式、年式によって使用できないものがあります。
- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

■DVDボタン [DVD]

● DVD プレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	0641
デノン	0490,0634,1282,1406,1634
フナイ	0675,1268
日立	0573,0664,0695,1247,1664
ビクター /JVC	0558,0623,0867,1164
ケンウッド	0490,0534
LG	0591,0741,0801,0869
マランツ	0539,1627
三菱	0521,1403,1521
オンキヨー	0627,1612(RI専用)
パナソニック / テクニクス	0490,0703,1010,1011,1282, 1362,1462,1490,1762
フィリップス	0503,0539,0585,0646,0675, 0854,1158,1260,1267,1340, 1354
パイオニア	0525,0571,0631
サムスン	0490,0573,0744,0820,0899, 1044,1075
サンヨー	0670,0695
シャープ	0630,0675,0752,1256
ソニー	0533,0864,1033,1069,1070, 1431,1533
ティアック	0571,0717,0759,0790
東芝	0503,0695,1045,1154
ヤマハ	0490,0539,0545,1282

● DVD レコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	0490
フナイ	0675
日立	1664
ビクター /JVC	1164
LG	0741
三菱	1403
パナソニック	0490,1010,1011
フィリップス	0646,1158
パイオニア	0631
サムスン	0490
シャープ	0630,0675
ソニー	1033,1069,1070,1431

■ CD/MD/CDR/DOCK(ドック)ボタン [MD/CDR CD DOCK]

● CD プレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	0157
デノン	0003,0034,0626,0766,0873
日立	0032
ビクター /JVC	0072,1294
ケンウッド	0028,0036,0037,0190,0626, 0681,0826
マランツ	0029,0038,0157,0180,0435, 0626
オンキヨー	1327(RI専用),1817
パナソニック / テクニクス	0029,0303,0388,0752
フィリップス	0157,0274,0626
パイオニア	0032,0468,1062,1087
サンヨー	0087
シャープ	0034,0037,0180,0861
ソニー	0000,0100,0185,0490,1364
ティアック	0180,0378,0393,0420,0435
ヤマハ	0036,0490,0888,1292

● CD レコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	0626,0766
ビクター /JVC	0072,1294
ケンウッド	0626
マランツ	0626
オンキヨー	1322(RI専用),1323
フィリップス	0626
パイオニア	1062,1087
ソニー	0000,0100,1364
ティアック	0420
ヤマハ	0888,1292

● MD レコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	0873
ケンウッド	0681,0826
オンキヨー	0868,1808(RI専用)
シャープ	0861
ソニー	0185,0490
ヤマハ	0490,0888

● RI ドック

ブランド名	コード番号
オンキヨー	1993(RI専用), 2990

■TV(テレビ)ボタン [TV]

●テレビ

ブランド名	コード番号
アイワ	1916
デル	1080,1178
富士通ゼネラル	0186
フナイ	0171,0180,0264,0342
日立	0009,0030,0056,0092,0109, 0145,0156,0178,0186,0225, 0474,0508,1037,1145,1150, 1156,1245,1256,1378
ケンウッド	0030
LG	0001,0030,0037,0056,0060, 0108,0178,0442,0474,0644, 0700,0714,0856,1178,1265, 1378,1178,1265,1378

マランツ	0030,0037,0054,0556,0704,0855
三菱	0030,0056,0093,0108,0150,0154,0178,0180,0236,0250,0474,0512,0817,0836,1150,1171,1182,1250
NEC	0009,0030,0051,0053,0056,0154,0156,0170,0178,0186,0264,0455,0474,0508,0704,0817,1150,1378,1456,1704
オリオン	0037,0236,0443,0463,0474,0880,1463
パナソニック/ナショナル/松下	0037,0051,0054,0161,0208,0226,0250,0508,0650,0896,1168,1175,1177
フィリップス	0000,0030,0037,0051,0054,0056,0092,0108,0178,0186,0474,0556,0690,1454,1483
パイオニア	0109,0166,0679,0760,0866
サムスン	0009,0030,0037,0056,0060,0090,0092,0154,0156,0178,0208,0226,0264,0474,0556,0587,0618,0644,0702,0766,0812,0814,0817,1060,1150
サンヨー	0088,0145,0154,0156,0180,0208,0264,0376,0424,0474,0508,1150,1179
シャープ	0009,0030,0093,0256,0474,0650,0787,0818,1165,1193
ソニー	0000,0650,1100,1167,1300,1505,1651
東芝	0009,0035,0060,0093,0145,0154,0156,0161,0264,0508,0509,0618,0644,0650,0845,1150,1156,1169,1173,1256,1265,1356,1456,1508,1656,1704,1935
ビクター/JVC	0053,0160,0250,0371,0376,0463,0508,0606,0650,0653,0683,0731,1172,1253

■ VCR(ビデオ)ボタン VCR

●ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	0000,0037,0348,0742,1291
フナイ	0000
日立	0000,0037,0041,0042,0089,0240,1037
ビクター/JVC	0041,0045,0067,1279
LG	0037,0038,0042,0045,0209,1037
三菱	0041,0043,0067,0081,0807,1343
オリオン	0121,0184,0209,0348,1479
パナソニック	0035,0162,0225,0226,0614,0616,0836,1035,1062,1162,1244,1293,1562
フィリップス	0000,0035,0081,0226,0618,0739
パイオニア	0042,0067,0081
サムスン	0045,0240,0739,1014
サンヨー	0047,0104,0240,1330
シャープ	0048,0209,0807,1048,1285
ソニー	0000,0032,0033,0035,0636,1232,1295,1296,1447,1448,1636,1972
東芝	0041,0042,0043,0045,0067,0081,0828,0845,1008,1145,1290,1972,1996

● HDD レコーダー

ビクター/JVC	1279
マイクロソフト	1972
パナソニック	1244
ソニー	1447,1448,1636
東芝	0828,1008

■ SAT(サテライト)/CABLE(ケーブル)ボタン CABLE SAT

●衛星放送チューナー

ブランド名	コード番号
アイワ	1514
DX アンテナ	1530
日立	0819,1250,1284,1525
ヒューマックス	1176,1427,1675,1743,1808
マスプロ	1530
三菱	0749
NEC	1270,1519
パナソニック	0247,0701,0847,1304,1404,1526
パイオニア	0329,0853,1308
シャープ	1517
ソニー	0639,0847,1524,1558,1639,1640
東芝	0749,0790,1285,1516,1530,1749

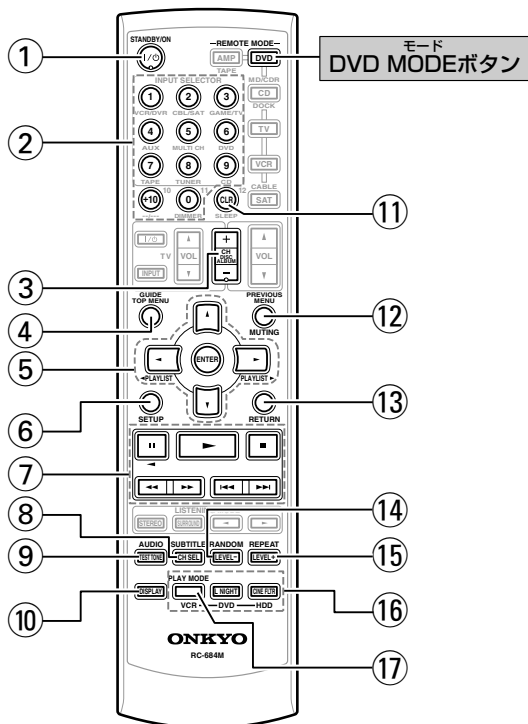
●ケーブルテレビチューナー

ブランド名	コード番号
DX アンテナ	1500
富士通ゼネラル	1497
NEC	1496
パナソニック	0000,0008,0107,1488
パイオニア	0144,0533,0877,1021,1500,1877
Scientific Atlanta	0008,0477,0877,1877
ソニー	1006,1460
住友電工	1500
東芝	0000,1509

DVDモード

DVD

DVDプレーヤー、DVDレコーダーを操作する

DVD MODE ボタンに、DVD プレーヤーや DVD レコーダーのリモコンコードを登録したときは、以下のボタンが働きます。

1. DVD MODE ボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す
   操作ボタン（リモコンコード記憶後）

① STANDBY/ON ボタン
DVD プレーヤーや DVD レコーダーの電源を入れたりスタンバイ状態にします。

② 数字ボタン（1 ～ 9、+10、0）
チャプター番号などを選択します。

③ DISC ＋ / －ボタン
DVD チェンジャーのディスクを選択します。

④ TOP MENU ボタン
DVD のトップメニュー画面を表示します。

⑤ ▲ / ▼ /◀/▶、ENTER ボタン
DVD のメニュー操作時、上下左右ボタンを押して項目を選択します。ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑥ SETUP ボタン
DVD の設定項目を表示します。

⑦ ❚❚/▶/ ■ /◀◀/▶▶/❙◀◀/▶▶❙ ボタン
❚❚ ボタン
再生を一時停止します。
▶ ボタン
ディスクを再生します。
■ボタン
再生を停止します。
◀◀/▶▶ ボタン
早戻し / 早送りをします。
❙◀◀/▶▶❙ ボタン
チャプターを頭出しします。

⑧ SUBTITLE ボタン
字幕言語を切り換えます。

⑨ AUDIO ボタン
音声を切り換えます。

⑩ DISPLAY ボタン
DVD プレーヤーの表示部に表示される情報を切り換えます。

⑪ CLR ボタン
入力した項目を取り消します。

⑫ MENU ボタン
DVD のメニュー画面を表示します。

⑬ RETURN ボタン
DVD のメニュー操作時に押すと、1 つ前の画面に戻ります。メインメニュー画面で押すと、メニュー操作を終了します。

⑭ RANDOM ボタン
ランダム再生をします。

⑮ REPEAT ボタン
くり返し再生をします。

⑯ VCR/DVD/HDD ボタン
ハードディスクやビデオと一体型の DVD レコーダーを操作するときに､VCR (ビデオ)､D V D､HDD (ハードディスク) を切り換えます。

⑰ PLAY MODE ボタン
プレイモードのある DVD プレーヤーや DVD レコーダーに使用します。

ご注意

接続する DVD プレーヤーや DVD レコーダー、再生する DVD によっては、対応していない機能もあります。

CD/MD/CDR/DOCKモード

CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダーを操作する

CD/MD/CDR/DOCK MODE ボタンに、CD プレーヤー、MD レコーダー、CD レコーダーのいずれかのリモコンコードを登録したときは、以下のボタンが働きます。

オンキヨー製 RI ドックを操作する

CD/MD/CDR/DOCK MODE ボタンに、RI ドックのリモコンコードを登録したときは以下のボタンが働きます。

ご注意

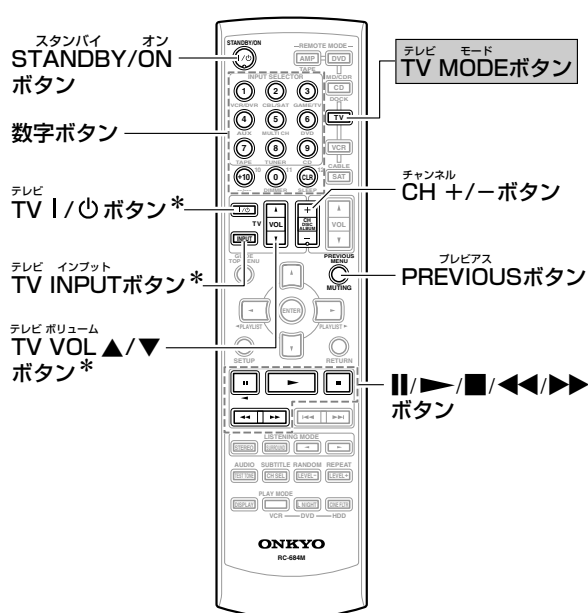
- ＊のついているボタンは、第 3 世代の iPod では使用できません。
- RI ドックの取扱説明書もご覧ください。
- iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Computer, Inc. の商標または登録商標です。

本機のリモコンで他の製品を操作する

TVモード

TV

テレビを操作する

TV MODE ボタンに、テレビのリモコンコードを登録したときは以下のボタンが働きます。

1. TV MODE ボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

STANDBY/ON：テレビの電源 ON/OFF
1 ～ 12：数字ボタン
PREVIOUS：1 つ前のチャンネルに戻る
CH + / −：チャンネル選択
II/►/■/◄◄/►►：ビデオデッキの操作ができます。

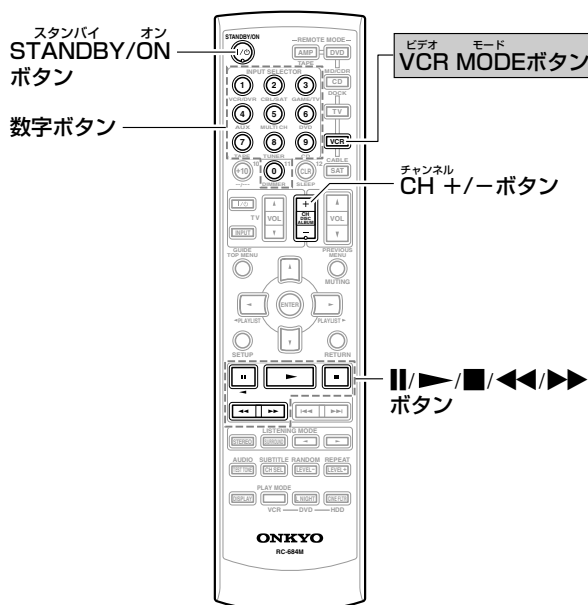
＊ のついたボタンは、どのリモコンモードでも TV MODE ボタンに登録したテレビを操作できます。

TV VOL ▲ / ▼：テレビの音量調整
TV I/⏻：テレビの電源 ON/OFF
TV INPUT：テレビの入力切換

VCRモード

VCR

ビデオデッキを操作する

VCR MODE ボタンに、ビデオデッキのリモコンコードを登録したときは以下のボタンが働きます。

1. VCR MODE ボタンを押す
2. 各操作ボタンを押す

STANDBY/ON：ビデオデッキの電源 ON/OFF
CH + / −：プリセット局の選局
0,1 ～ 9：数字ボタン
►：再生
■：停止
◄◄：巻戻し
►►：早送り
II：一時停止

SAT/CABLEモード

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーを操作する

SAT/CABLE MODE ボタンに、衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーのいずれかのリモコンコードを登録したときは、以下のボタンが働きます。

STANDBY/ON ボタン

数字ボタン

GUIDEボタン

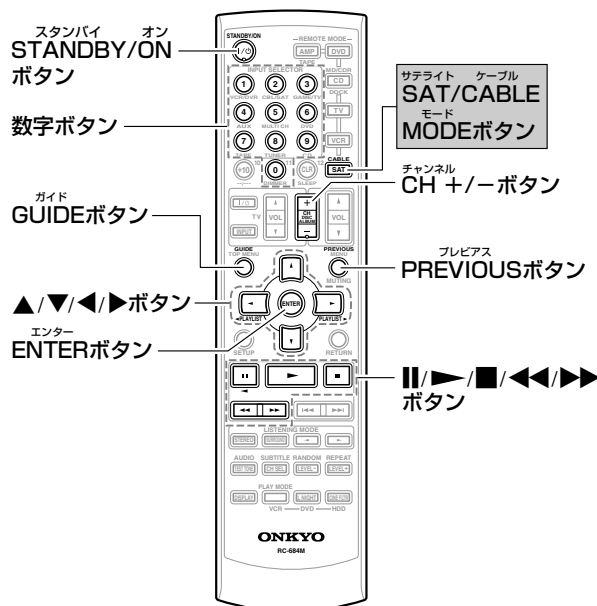
▲/▼/◀/▶ボタン

ENTERボタン

SAT/CABLE MODEボタン

CH +/−ボタン

PREVIOUSボタン

❚❚/►/■/◀◀/▶▶ ボタン

1. SAT/CABLE MODE ボタンを押す

2. 各操作ボタンを押す

STANDBY/ON	：衛星放送 / ケーブルテレビチューナーの電源 ON/OFF
CH ＋ / −	：プリセットチャンネルの選局
0,1 ～ 9	：数字ボタン
▲ / ▼ /◀/▶	：カーソル移動
ENTER	：決定
PREVIOUS	：1 つ前のチャンネルに戻る
GUIDE	：プログラムガイドを表示する
❚❚/►/■/◀◀/▶▶	：ビデオデッキの操作ができます。

困ったときは

まず下記の内容を点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
オンキヨーホームページからも、製品の取り扱い方法や FAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/support
●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

■修理を依頼する前に

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、本機をリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順でリセットしてみてください。

電源を入れた状態で本体の VCR/DVR ボタンを押したまま、STANDBY/ON（スタンバイ/オン） ボタンを押してください。

表示部に「Clear（クリア）」が表示されて、スタンバイ状態に戻ります。

Clear

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5 秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が働いている可能性があります。スピーカーコードがショートしていないか本機のスピーカー端子、コード、スピーカー側の端子をご確認ください。**（16、17）**
  スピーカーコードを外してもすぐに電源が切れる場合、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

音声が出力されない / 小さい

音声信号の設定はされていますか？ DIGITAL INPUT ボタンをくり返し押して、デジタル入力の設定を正しく行ってください。**（35）**

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子 / 出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの＋ / −は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。**（17）**
- 入力が正しく選択できているか確認してください。**（36）**
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的に Min · 1 · 2 · · · 78 · 79 · Max まで調整できます。一般のご家庭で 50 前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。**（36）**
- 表示部に“MUTING”と表示されている場合はリモコンの MUTING ボタンを押して解除してください。**（37）**
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。**（37）**
- 自動スピーカー設定用のマイクを接続したままになっていませんか？
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定が OFF になっていることがあります。
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは､フォノイコライザーを経由して接続してください。**（26）**
- MC カートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。**（26）**
- 本機に LD プレーヤーを接続するときは、AC-3RF 出力端子は直接接続できません。LD プレーヤーでドルビーデジタル 5.1ch ソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。
- デジタル入力モードの設定の確認を行ってください。「DTS」や「PCM」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。**（53）**
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。**（40 〜 43）**
- 自動スピーカー設定をもう一度行うか、スピーカーの設定を手動で行ってください。**（32 〜 34、48 〜 52）**

希望する信号フォーマットで聴くことができない（Dolby Digital、DTS や AAC のフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTS や AAC の音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。

- デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。**（35）**
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力が OFF になっていることがあります。

特定のスピーカーから音が出ない

テストトーンは出ますか？

リモコンの AMP ボタンを押してから TEST TONE ボタンを押して、接続したすべてのスピーカーから個別にテストトーンが出ているか確認してください。
もう一度 TEST TONE ボタンを押すと、テストトーンは止まります。

表示部にスピーカーの表示は出るが、テストトーンが出ない

- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
- スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
- ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。

テストトーンも出ず、表示部にも表示されない

- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。もう一度、自動スピーカー設定をするか、スピーカー環境の設定を手動で行ってください。**（32 ～ 34、48）**

テストトーンは出るが、音が出ない

- 再生するソースによっては音が出にくいスピーカーがあります。
- 低域効果音（LFE）の入っていないソフトを再生している場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

表示と違うスピーカーから音が出る

- スピーカーの接続が正しくありません。それぞれのスピーカーが正しい端子に接続されているか確認してください。**（16、17）**

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない

- テレビや AM 放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジック II またはドルビープロロジック IIx にすると、センタースピーカーに音が集中します。

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」、「Mono」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。

サラウンドバックスピーカーから音が出ない

- 入力ソースやリスニングモードによっては、サラウンドバックスピーカーの音が出にくい場合があります。

サブウーファーから音が出ない

- 入力ソースに低域効果音（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

希望するリスニングモードが選べない

- スピーカーの接続状態によっては、選択できないリスニングモードがあります。
「入力信号の種類と対応するリスニングモード」でご確認ください。

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。**（39）**

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応の DVD プレーヤーを使用しているか確認してください。
- リモコンや本体の「MULTI CH」ボタンを押してください。**（38）**

DTS 信号について

- DTS 信号を再生しているときは、本機の DTS インジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTSインジケーターが点灯したままになります。このため、DTS 信号から急に PCM 信号に切り換わるタイプのソフトは、PCM がすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約 3 秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部の CD または LD プレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しく DTS 再生ができない場合があります。出力されている DTS 信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しい DTS 信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS 対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

困ったときは

映像

映像が出ない

- TV など、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- 前面パネルの PURE AUDIO インジケーターが点灯している場合は、LISTENING MODE◀/▶ ボタンなどを押して、他のリスニングモードを選んでください。Pure Audio のリスニングモードになっていると、映像は出ません。
- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の映像出力端子と本機の接続に間違いがないか確認してください。
- 19 ページの「映像と接続のしくみ」を参考にして、正しく接続してください。
- D4 VIDEO IN 端子と COMPONENT DVD IN 端子を同じ系統で同時に接続しないでください。正しく映像が出力されません。**(19)**

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（＋ / －）が正しく入っているか確認してください。**(14)**
- 電池を 2 本とも新しいものと交換してみてください。リモコン電池が消耗していると、一部のボタンが働かない場合があります。**(14)**
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。**(11)**

RI専用リモコンコードを使ったオンキヨー製他機器の操作ができない

- オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルだけでは正しく連動しません）
- もう一度、RI専用リモコンコードを入力し直してください。**(54)**
- RI専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。**(11)**
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。（例：TAPE 端子に MD レコーダーや CD レコーダー、RI ドックを接続した場合や、GAME/TV 端子に RI ドックを接続した場合）**(35)**

オンキヨー製機器（RIなし）や他メーカー機器の操作ができない

- 他機器との接続が正しいか確認してください。
- もう一度リモコンコードを入力し直してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。
- リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。
- 製品によっては動作しない場合もあります。

録音 / 録画

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。

録画ができない

- 「Pure Audio」リスニングモードを選択している場合は、映像回路がオフになるため、録画できません。他のリスニングモードを選択してください。

その他

自動スピーカー設定中に「Noise Error!」と表示される

- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーが故障していないか確認してみてください。

ヘッドホンを接続すると音が変わる

- 「Direct」、「Pure Audio」、「Mono」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo」になります。**(37)**

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

表示が出ない

- リスニングモードが「Pure Audio」になっていると表示が消えます。

音量調整が 79 以下で終わる

- 自動スピーカー設定をした場合や、各スピーカーの音量レベル調整を行うと、音量最大値が変わることがあります。

多重音声の言語を切り換えたい

- 「4. Audio Adjust」の「Multiplex」設定で主音声と副音声を切り換えます。**(44)**

用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルや DSP の音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから 5.1 チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Video の標準音声、米国 DTV の標準音声として採用されています。

ドルビーデジタル EX（Dolby Digital EX）
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー､左右側面と背面の 3 つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360 度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の 5.1 チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジック II（Dolby Pro Logic II）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を 5.1 チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード､音楽再生に適した「Music」モード､ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビープロロジック IIx（Dolby Pro Logic IIx）
ドルビープロロジック II をさらに改良したマトリックスデコード技術｡ステレオ音源を7.1 チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード､ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

DTS デジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国の DTS 社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常 4:1 程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期して CD-ROM に記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド
(DTS-ES Extended Surround)
従来の DTS5.1ch システムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ES には「DTS-ES ディスクリート 6.1ch」と「DTS-ES マトリックス 6.1ch」の 2 種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来の DTS5.1ch 対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート6.1 (DTS-ES Discrete 6.1)
5.1 チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応した DTS デジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した 6.1 チャンネル音声を再生する DTS システム。

DTS-ES　マトリックス 6.1 (DTS-ES Matrix 6.1)
映画館における DTS-ES と同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して 6.1 チャンネルとする方式の DTS システム。マトリックスデコーダーとして Neo:6 に対応した機器を使用します。

DTS96/24
DTS96/24 フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1 チャンネル再生する DTS システム。サンプリング周波数 96kHz、量子化ビット数 24 ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

Neo:6
DTS 社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての 2 チャンネルソースを 6 チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「シネマ」モードと音楽に適した「ミュージック」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックス 6.1 のセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding) は､AT&T 社､ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS)、そしてソニー株式会社の 4 社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISO と IEC の共同管轄の下に、MPEG-2 規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来の MPEG 音声との後方互換性がないので、従来の MPEG 音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

音声

アナログ
一般的な再生機器に装備されているL/R（白/赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル
デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号でＲＣＡタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。
音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。
44.1kHzは1秒間に44100回、96kHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1ch サラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

7.1ch サラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー2つで7ch（7チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この8本のスピーカーを使って再生することを7.1chサラウンドと言います。

映像

コンポジット
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

Ｓビデオ
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。
コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはＳビデオコードを使用します。テレビにＳ端子がある場合に使えます。

コンポーネント
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）を2つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
Ｓ信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルをご使用ください。テレビにコンポーネント端子がある場合に使えます。画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。

D端子
ケーブル1本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビにD端子がある場合に使えます。
D1 ～ D4までの解像度のランクがあり、D4がもっとも高画質です。画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

主な仕様

アンプ（音声）部

定格出力：
全チャンネル
100W(6 Ω､20Hz ～ 20kHz､全高調波歪率 0.08%以下、1ch 駆動時、JEITA）
実用最大出力：
全チャンネル
160W（6Ω、1kHz、1ch 駆動時、JEITA）
全高調波歪率：0.08%（1kHz、定格出力時）
ダンピングファクター：フロント、8Ω負荷時で 60
入力感度 / インピーダンス：
LINE：200mV/47kΩ
出力電圧 / インピーダンス：
REC OUT：200mV/2.2kΩ
周波数特性：
5Hz ～ 100kHz:+1dB/ − 3dB（ダイレクトモード）
トーンコントロール最大変化量：
Bass：± 10dB（50Hz 時）
Treble：± 10dB（20kHz 時）
SN 比：
100dB（LINE、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス：4Ωまたは 6Ω～ 16Ω

映像部

入力感度・出力電圧 / インピーダンス：
1.0Vp-p/75Ω（コンポーネント、S ビデオ Y 信号）
0.7Vp-p/75Ω（コンポーネント Pb/Cb、Pr/Cr）
0.28Vp-p/75Ω（S ビデオ C 信号）
1.0Vp-p/75Ω（コンポジット）
コンポーネント映像周波数特性：5Hz ～ 50MHz

総合

電源・電圧：AC100V · 50/60Hz
消費電力：410W
待機時電力：0.1W
最大外径寸法：435（幅）×150（高さ）×377（奥行）mm
質量：10.3kg

●映像入力：
D4：3（D4 VIDEO DVD IN､VCR/DVR IN､GAME/TV IN）
コンポーネント： 3（COMPONENT DVD IN、VCR/DVR IN、GAME/TV IN）
S ビデオ：3（DVD、VCR/DVR、GAME/TV）
コンポジット：4（DVD、VCR/DVR、GAME/TV、AUX（前面パネル））

●映像出力：
D4：1（D4 VIDEO OUT）
コンポーネント：1（COMPONENT VIDEO OUT）
S ビデオ：2（VCR/DVR、MONITOR OUT）
コンポジット：2（VCR/DVR、MONITOR OUT）

●音声入力：
デジタル：4（OPTICAL2、COAXIAL2）
アナログ：7（DVD（マルチチャンネル）、CD、TAPE、VCR/DVR、GAME/TV、AUX（前面パネル）、TUNER）
マルチ ch アナログ：7.1ch（DVD）

●音声出力：
デジタル：1（OPTICAL）
アナログ：2（TAPE、VCR/DVR）
サブウーファープリ出力：1
スピーカー出力： 左右フロント / センター / 左右サラウンド / 左右サラウンドバック
ヘッドホン出力：1

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

高調波抑制規格 JIS C61000-3-2 適合品

本機はマイクロコンピュータにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約 5 秒後にあらためて電源プラグを挿し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CD レンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音·録画できることを確認の上、録音·録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 TX-SA505
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口·修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　　(　　)
メモ：

ONKYO
オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間　9：30〜17：30
（土·日·祝日·弊社の定める休業日を除きます）

G0704-2

SN 29344413A